

平成 19 年 7 月の地震活動及び火山活動について

○ [地震活動]

7 月 16 日 10 時 13 分に新潟県上中越沖で M6.8 の地震が発生し、新潟県長岡市、柏崎市、刈羽村及び長野県飯綱町で震度 6 強を、新潟県上越市、小千谷市、出雲崎町で震度 6 弱を観測しました。この地震により津波が発生し、柏崎及び小木で 0.3m の津波を観測しました。余震活動は減衰しています。気象庁はこの地震を「平成 19 年（2007 年）新潟県中越沖地震」と命名しました。

全国で震度 1 以上を観測した地震の回数は 280 回（新潟県中越沖地震の余震活動 128 回を含む）、日本及びその周辺における M 4 以上の地震の回数は 93 回（新潟県中越沖地震の余震活動 13 回を含む）でした。

国土地理院の GPS 観測結果では、7 月 16 日に発生した新潟県中越沖地震による地殻変動が観測されています。

震度 3 以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙 1 のとおりです。また、世界の主な地震は別紙 2 のとおりです。

○ [火山活動]

諏訪之瀬島では 26 日から 30 日にかけて小規模な噴火が発生しました。

桜島では、今期間噴火は観測されませんでした。長期にわたり噴火活動が継続しています。

三宅島では、多量の火山ガスの放出が続いています。

樽前山、硫黄島、薩摩硫黄島及び口永良部島では、火山活動のやや活発な状態が続いています。

日本の主な火山活動の概況は別紙 3 のとおりです。また、世界の主な火山活動は別紙 4 のとおりです。

注 1：国土地理院の GPS による地殻変動観測については、国土地理院ホームページの記者発表資料「平成 19 年 6 月～7 月の地殻変動について」を参照ください。

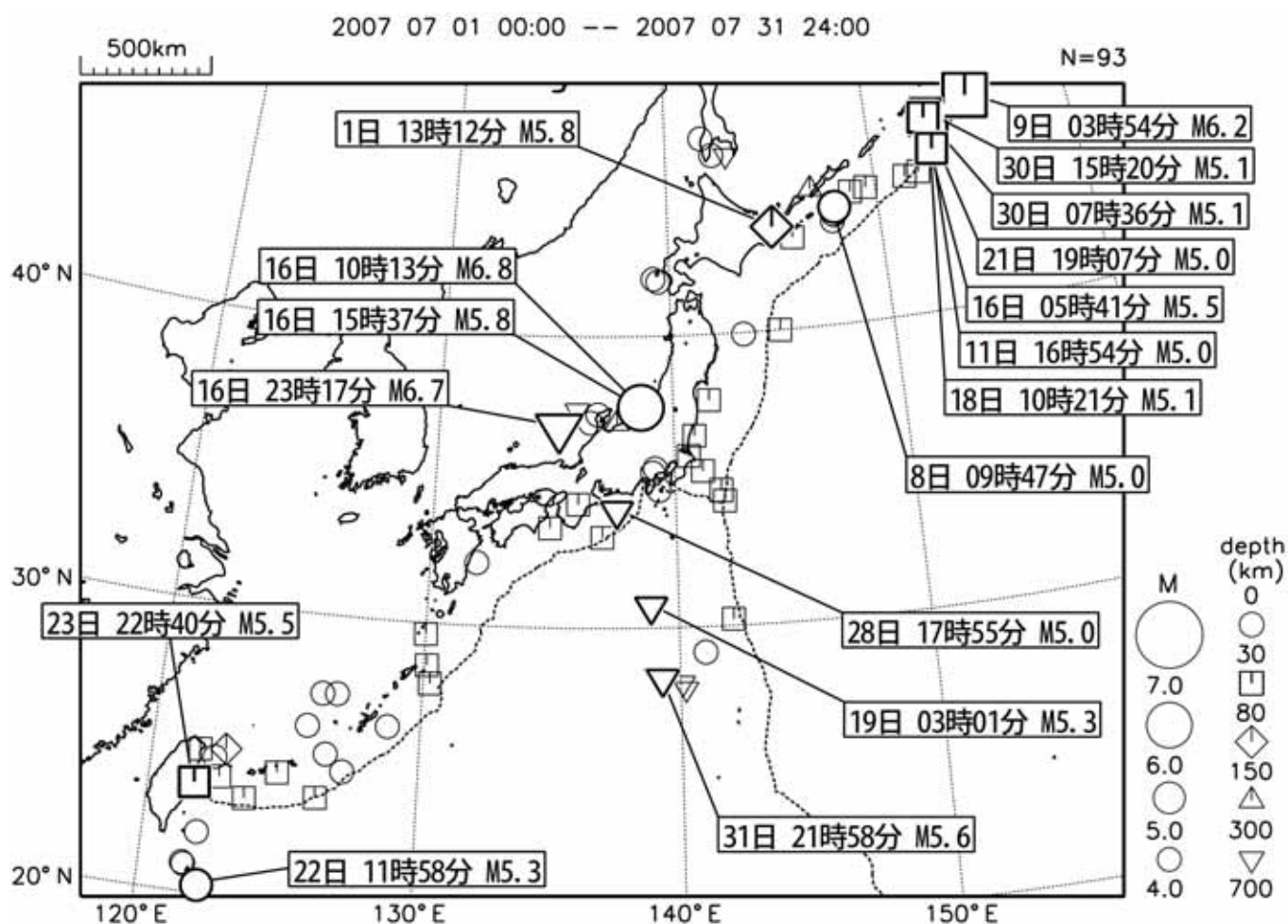
<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/2007/goudou0807.htm>

注 2：気象庁の地震活動資料には、防災科学技術研究所や大学等関係機関のデータも使われています。

注 3：地震活動および火山活動の詳細については、地震・火山月報(防災編)2007 年 7 月号(2007 年 8 月末頃に刊行及び気象庁ホームページ掲載予定)をご覧ください。

注 4：平成 19 年 8 月の地震活動及び火山活動については、平成 19 年 9 月 7 日に発表の予定です。

2007 年 7 月の全国の地震活動 (マグニチュード 4.0 以上)



新潟県上中越沖で 7 月 16 日に M6.8 の地震があり、最大震度 6 強を観測した。気象庁はこの地震を「平成 19 年（2007 年）新潟県中越沖地震」と命名した。また、M5.8 の余震で最大震度 6 弱を観測した。

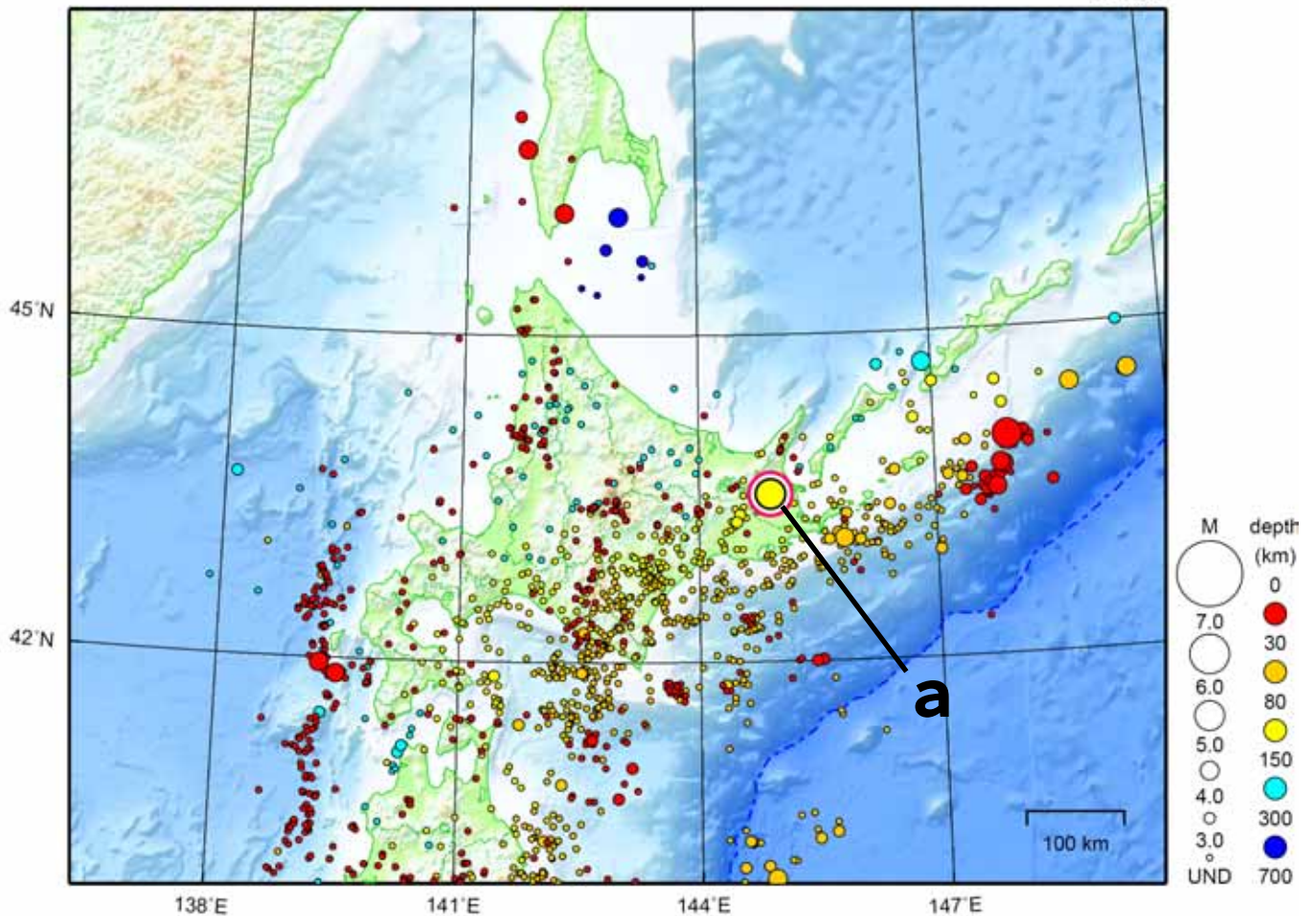
京都府沖で 7 月 16 日に M6.7 の地震があった。

なお、期間外ではあるが、8 月 2 日にサハリン近海〔サハリン南部付近〕で M6.4 の地震（国内最大震度 2）が発生し、北海道で津波を観測した。

北海道地方

2007/07/01 00:00 ~ 2007/07/31 24:00

N=1375



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

a) 7月1日に根室支庁北部で M5.8 (最大震度4) の地震があった。

(上記期間外)

8月2日にサハリン近海〔サハリン南部付近〕で M6.4 の地震 (国内最大震度2) が発生し、北海道で津波を観測した。

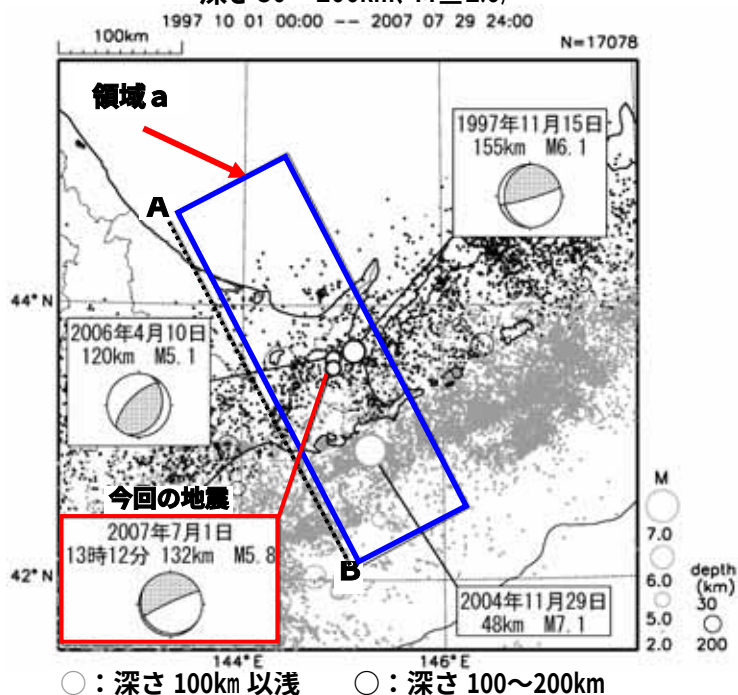
() 内は気象庁が情報発表に用いた震央地域名

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度3 以上のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

7月1日 根室支庁北部の地震

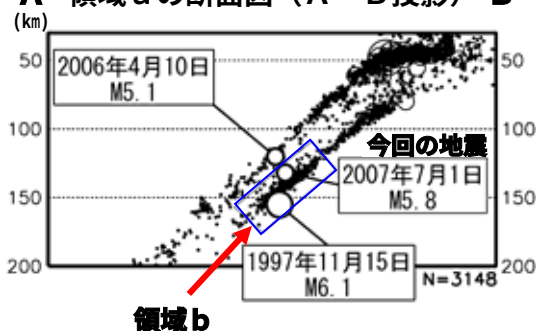
A 震央分布図 (1997年10月1日以降、 深さ 30~200km、 $M \geq 2.0$)



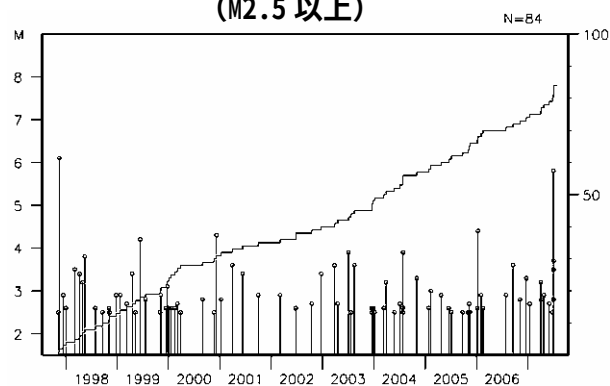
2007年7月1日13時12分に根室支庁北部の深さ132kmでM5.8の地震が発生し、最大震度4を観測した。発震機構は太平洋プレートの沈み込む方向に張力軸を持つ型で、太平洋プレート内部（二重地震面の下面）で発生した地震と考えられる。

今回の地震の震源付近(断面図の領域b)では、1997年11月15日のM6.1の地震以降、M5を越える地震は発生していなかった。(A)。

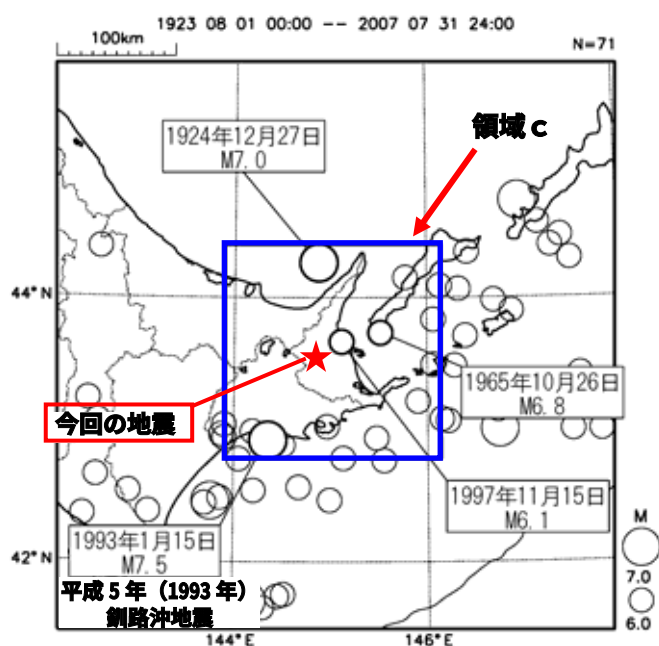
A 領域aの断面図 (A-B投影) B



左図領域b内の地震活動経過図 (M2.5以上)

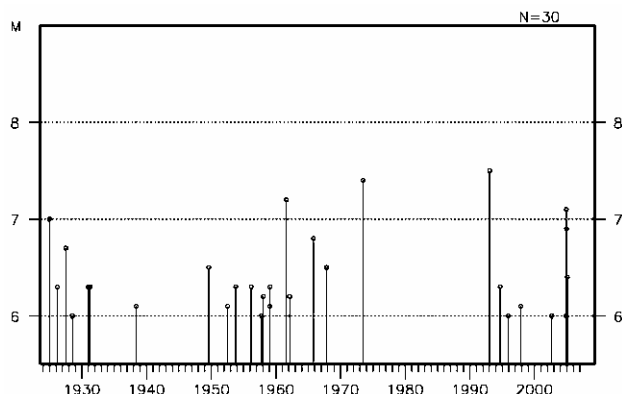


B 震央分布図 (1923年8月以降、 $M \geq 6.0$ 、深さ 0~200km)



1923年8月以降のM6以上の活動をみると、今回の地震の震源のごく近傍ではM6クラスまでだが、周辺まで見るとM7を超える地震も発生している(B)。

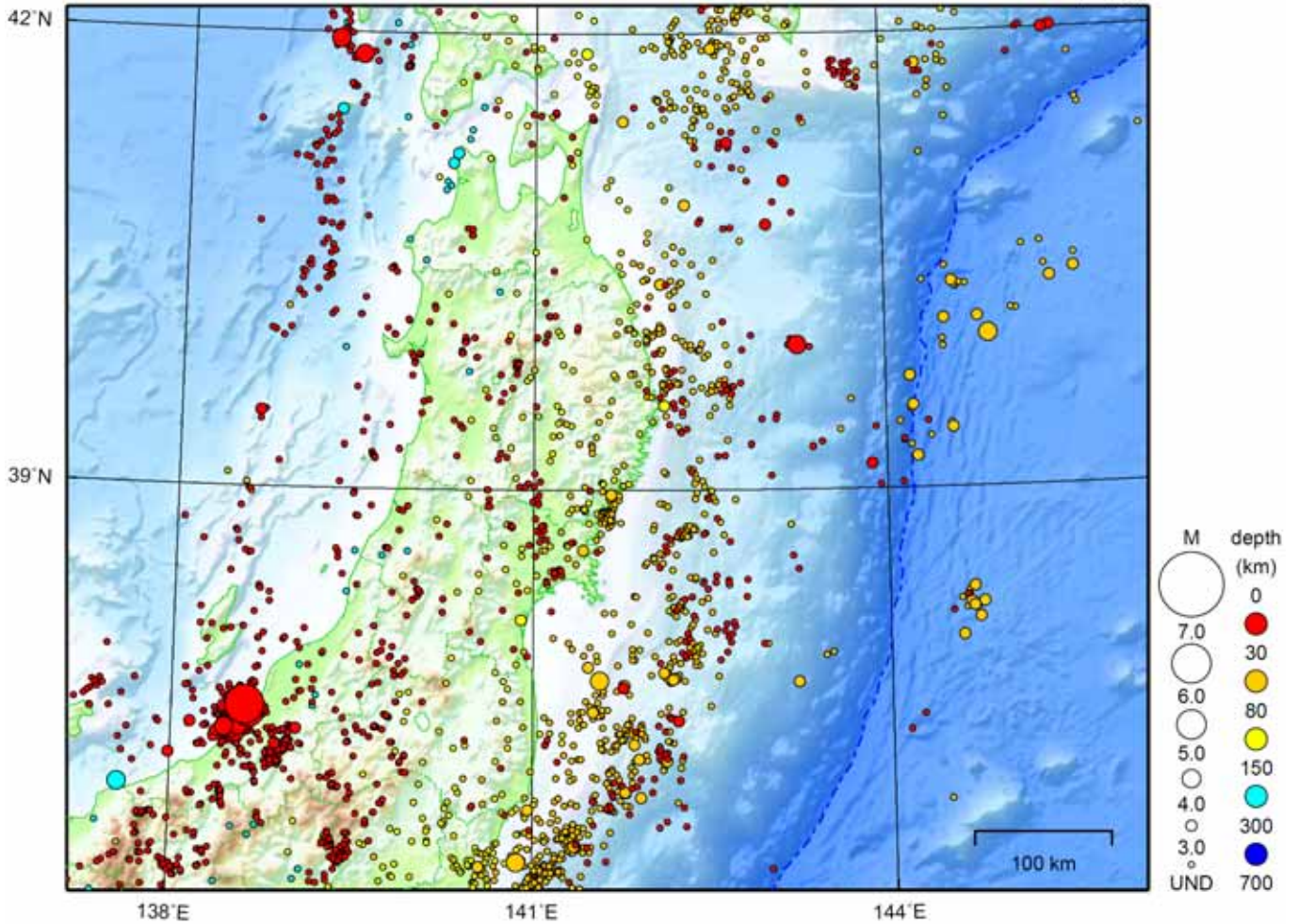
領域c内の地震活動経過図



東北地方

2007/07/01 00:00 ~ 2007/07/31 24:00

N=4799



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

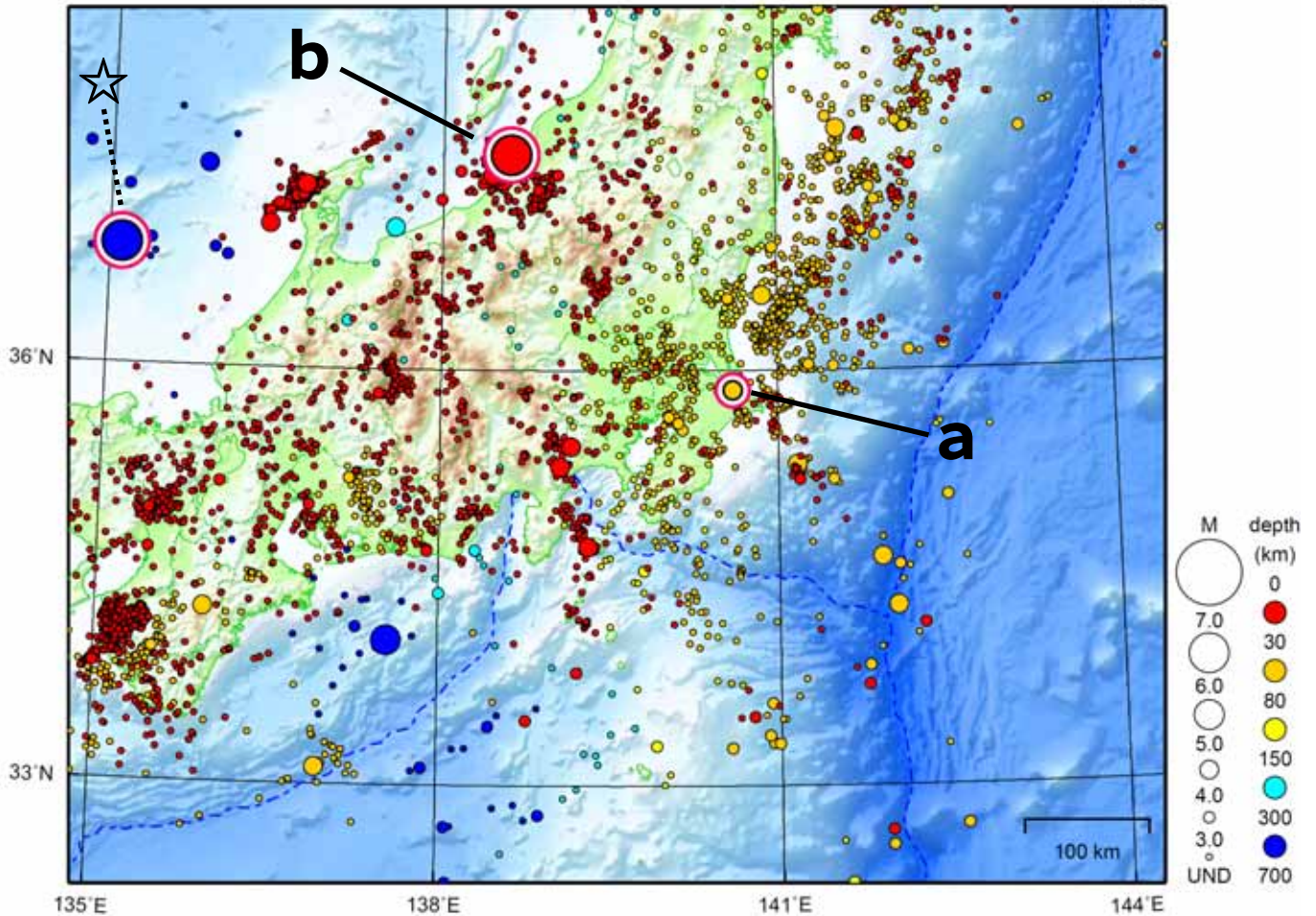
[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

関東・中部地方

2007/07/01 00:00 ~ 2007/07/31 24:00

N=7850



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

a) 7月3日に茨城・千葉県境付近〔茨城県南部〕で M4.5（最大震度3）の地震があった。

b) 7月16日に新潟県上中越沖で M6.8（最大震度6強）*の地震があった。

*：気象庁はこの地震を「平成19年（2007年）新潟県中越沖地震」と命名した。

☆ 7月16日、京都府沖の地震の資料は、近畿・中国・四国地方のページを参照のこと。

〔 〕内は気象庁が情報発表に用いた震央地域名

〔上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。〕

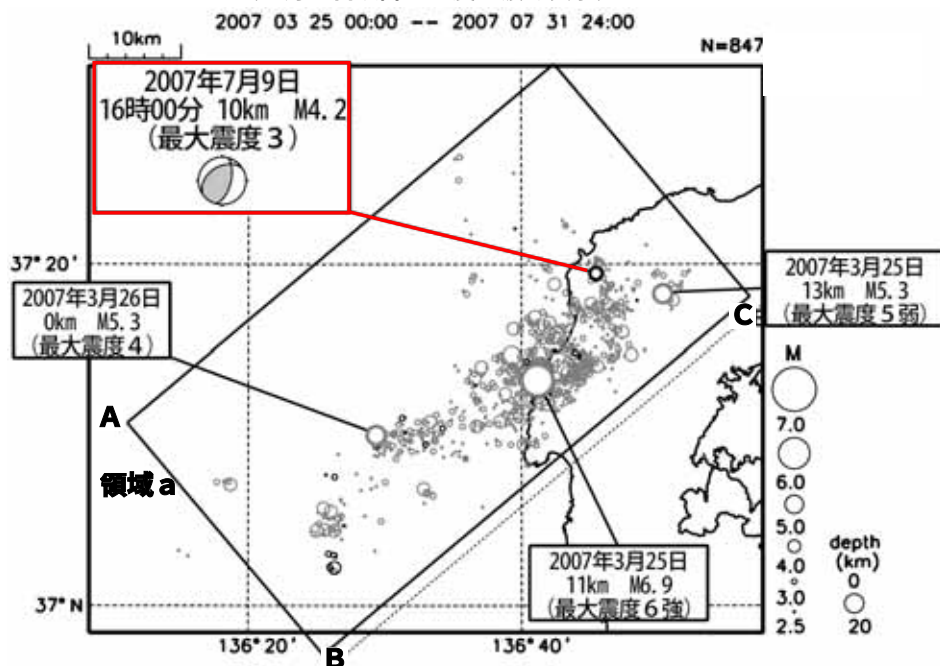
気象庁・文部科学省

平成 19 年（2007 年）能登半島地震の余震活動

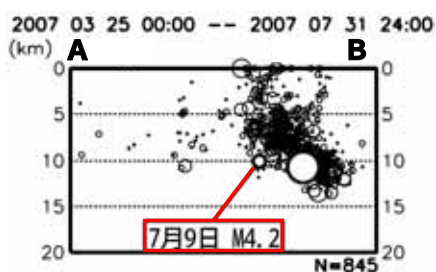
平成 19 年（2007 年）能登半島地震（M6.9）の余震活動は落ち着いてきている。
7 月中の最大の地震は、7 月 9 日に発生した M4.2（最大震度 3）の地震であった。

震央分布図（2007 年 3 月 25 日以降、 $M \geq 2.5$ ）

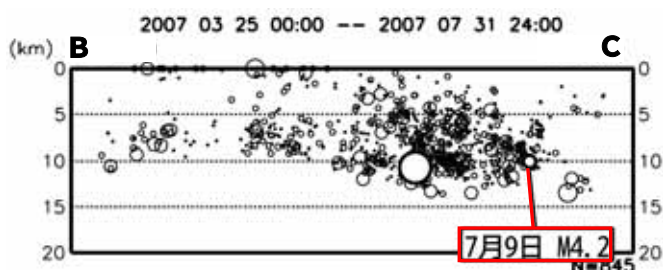
（7 月 1 日以降の地震を濃く表示）



領域 a 内の断面図（A－B 投影）

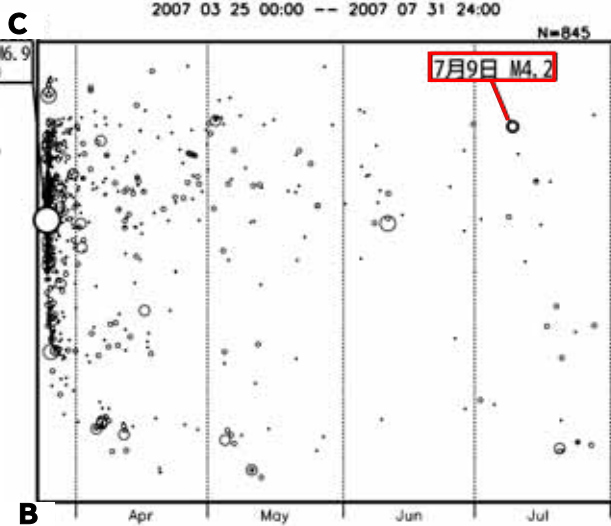
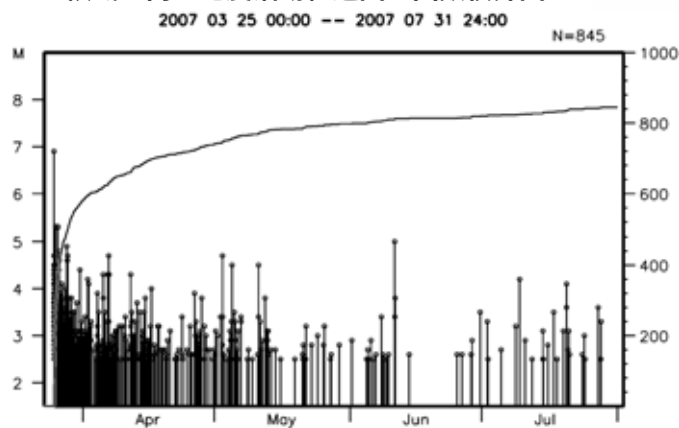


領域 a 内の断面図（B－C 投影）



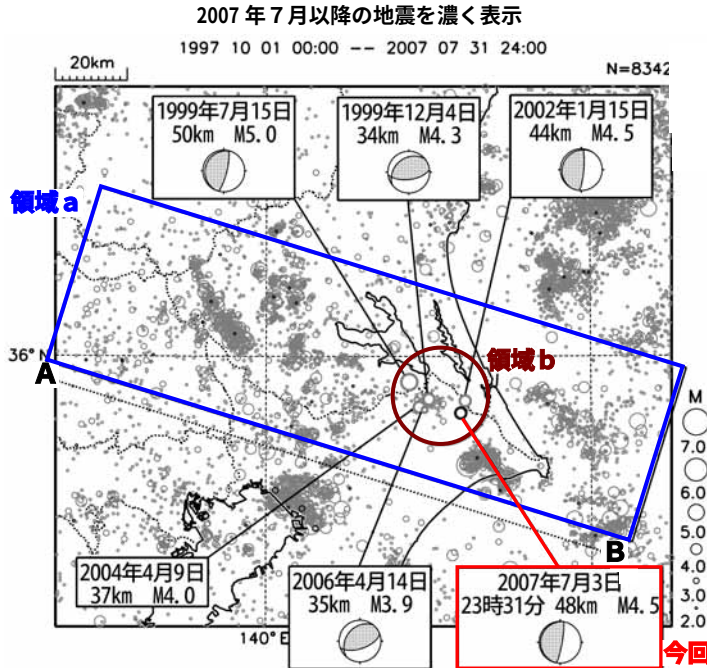
領域 a 内の時空間分布図（B－C 投影）

領域 a 内の地震活動経過図、回数積算図



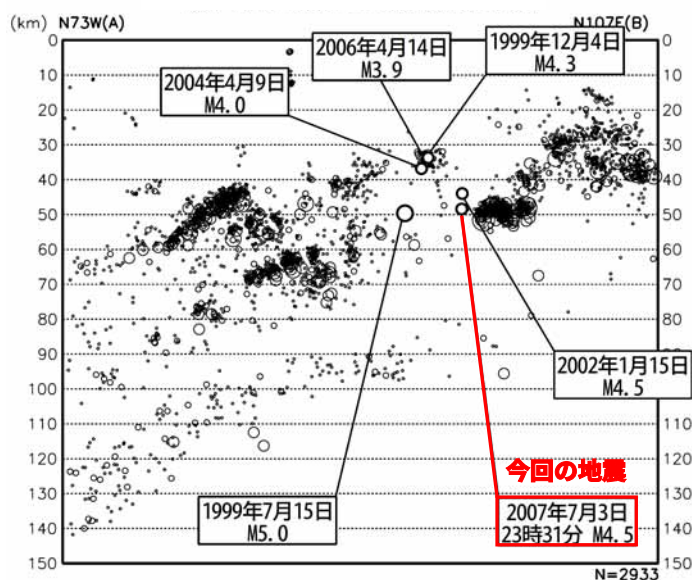
7月3日 茨城・千葉県境付近（茨城県南部）の地震

A 震央分布図（1997年10月以降、 $M \geq 2.0$ ）

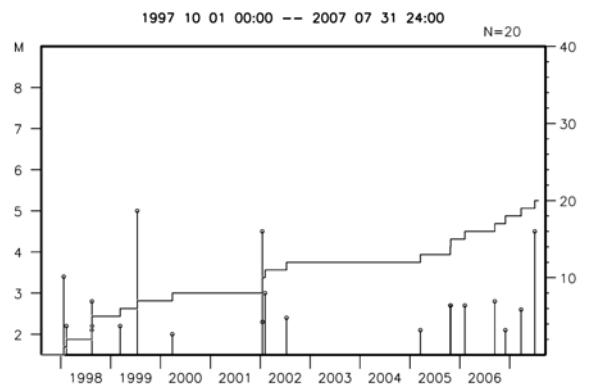


2007年7月3日23時31分に茨城・千葉県境付近〔茨城県南部〕の深さ48kmでM4.5（最大震度3）の地震が発生した。発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した地震である。今回の地震の震央付近（領域b内）では1999年7月15日にM5.0（最大震度3）、2002年1月15日にM4.5（最大震度3）の地震が発生しているが、その他の地震はフィリピン海プレートと陸のプレートの境界付近で発生する地震がほとんどである。（A）

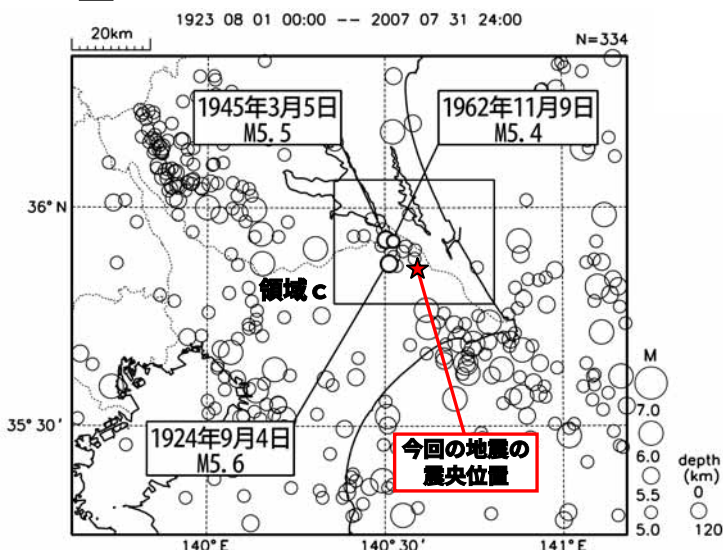
領域a内の断面図（A-B投影）



領域b内の地震活動経過図、回数積算図（深さ20~70km）

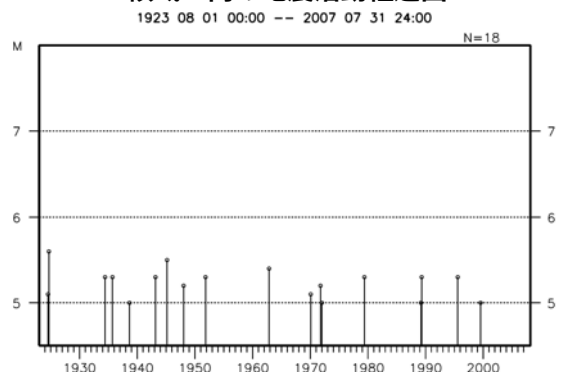


B 震央分布図（1923年8月以降、 $M \geq 5.0$ ）



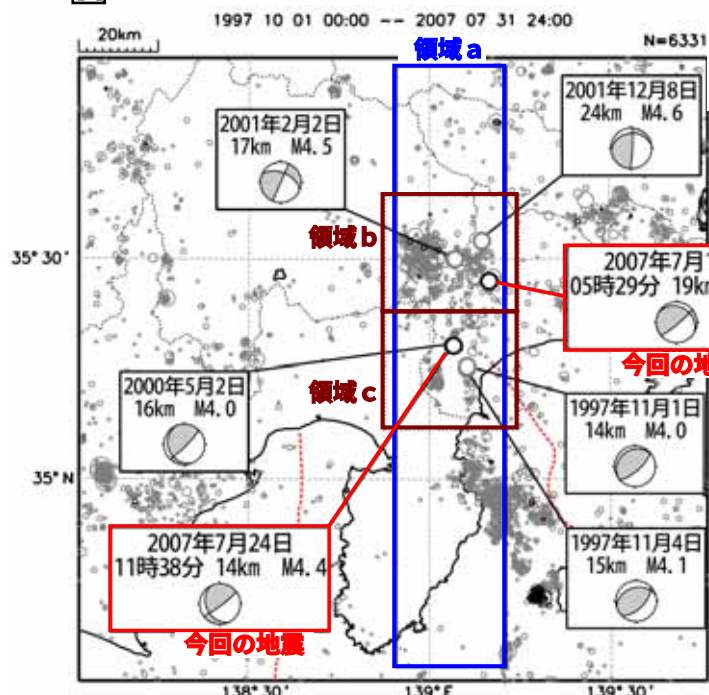
1923年8月以降、今回の地震の震央付近では、1924年9月4日に発生したM5.6の地震が最大であり、M6.0を超える地震は発生していない。（B）

領域c内の地震活動経過図



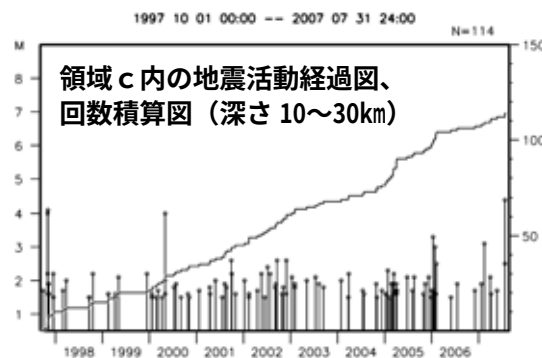
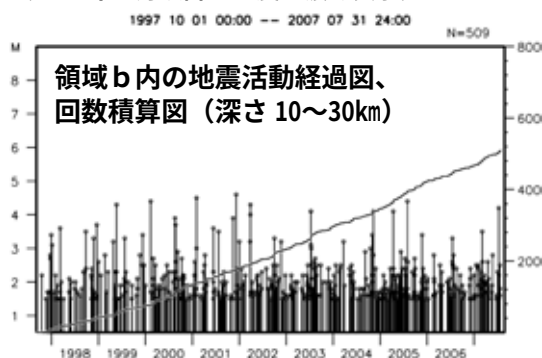
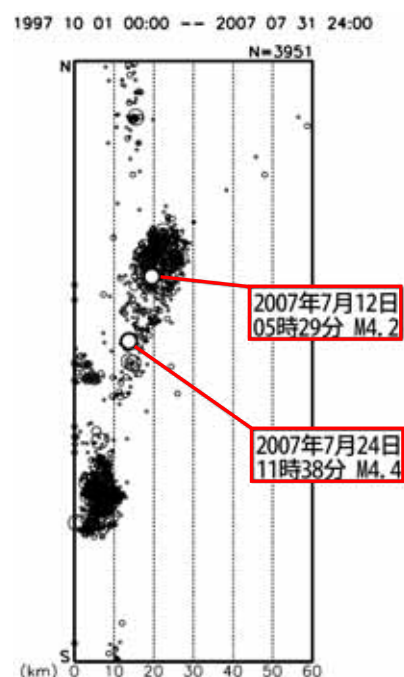
7月12日、24日 神奈川県西部の地震

A 震央分布図 (1997年10月以降、 $M \geq 1.5$)



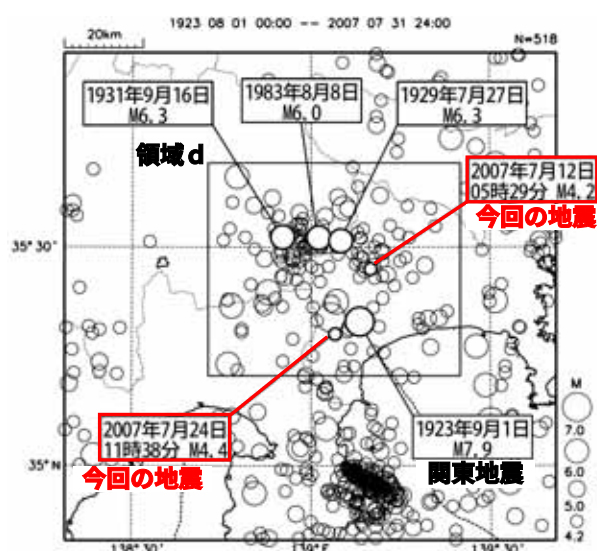
(2007年7月以降の地震を濃く表示)

領域a内の南北断面図

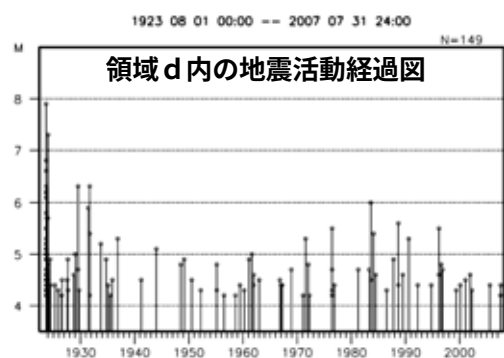


神奈川県西部で、2007年7月12日05時29分に $M4.2$ (深さ19km、最大震度3)、24日11時38分に $M4.4$ (深さ14km、最大震度3) の地震が発生した。発震機構は、12日の地震が北北西-南南東方向に圧力軸を持つ型で、また24日の地震は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ型で、共にフィリピン海プレートと陸のプレートが衝突していると考えられている場所で発生した地震である。(A)

B 震央分布図 (1923年8月以降、 $M \geq 4.2$)

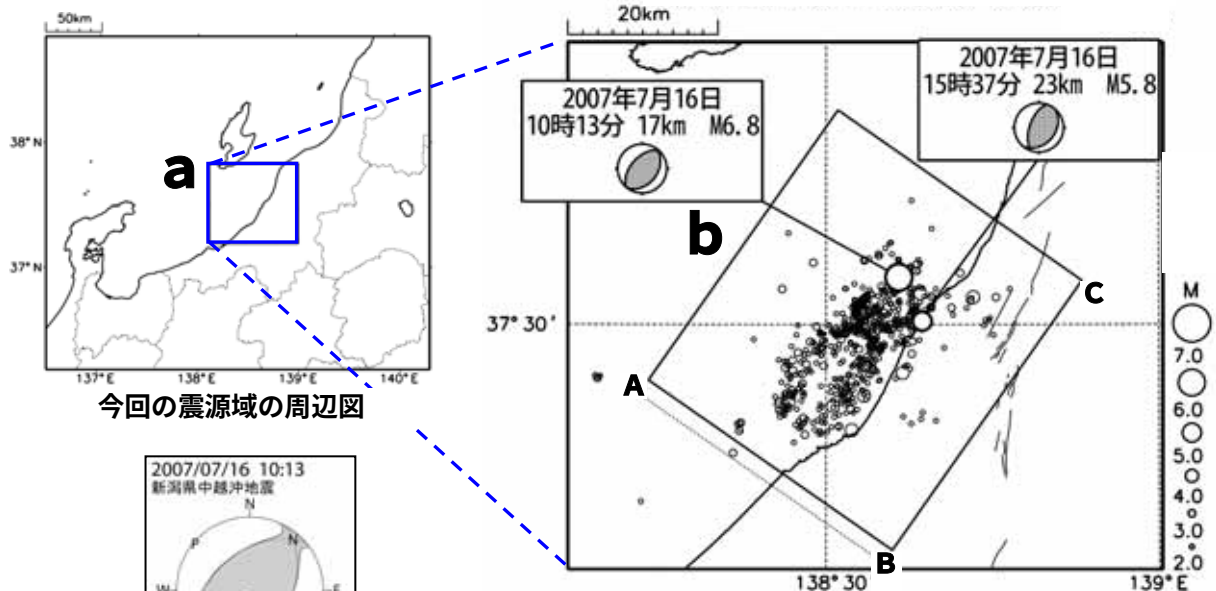


1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近で1923年の関東地震の活動以降では、 $M6.0$ 以上の地震が3回発生している。最近では1983年8月8日に $M6.0$ (最大震度4) の地震が発生している。(B)



平成 19 年（2007 年）新潟県中越沖地震

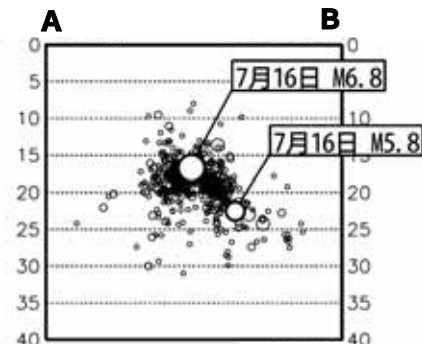
2007 年 7 月 16 日 10 時 13 分に新潟県上中越沖の深さ 17km で M6.8（最大震度 6 強）の地震が発生した。発震機構は、P 波初動解、CMT 解共に北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。地震活動は本震－余震型で推移しており、次第に減衰してきている。7 月 25 日までの最大の余震は、16 日 15 時 37 分に発生した M5.8（最大震度 6 弱）の地震であった。



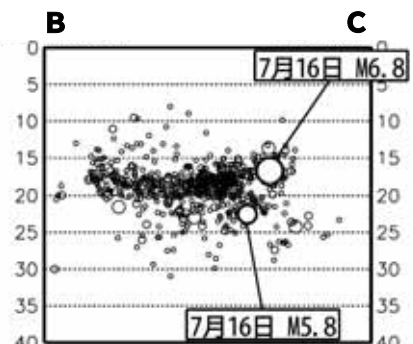
今回の震源域の周辺図



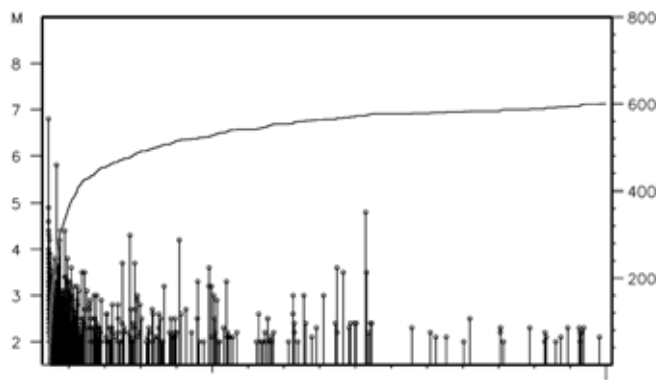
本震の発震機構解（CMT 解）



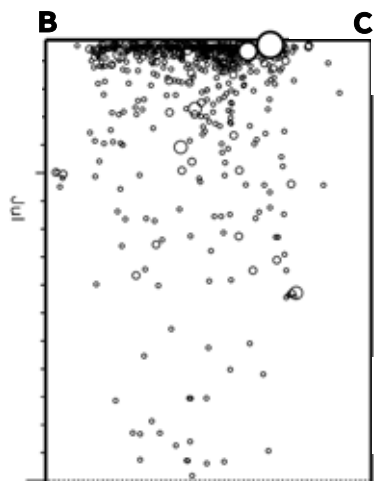
領域 b 内の断面図（A - B 投影）



領域 b 内の断面図（B - C 投影）



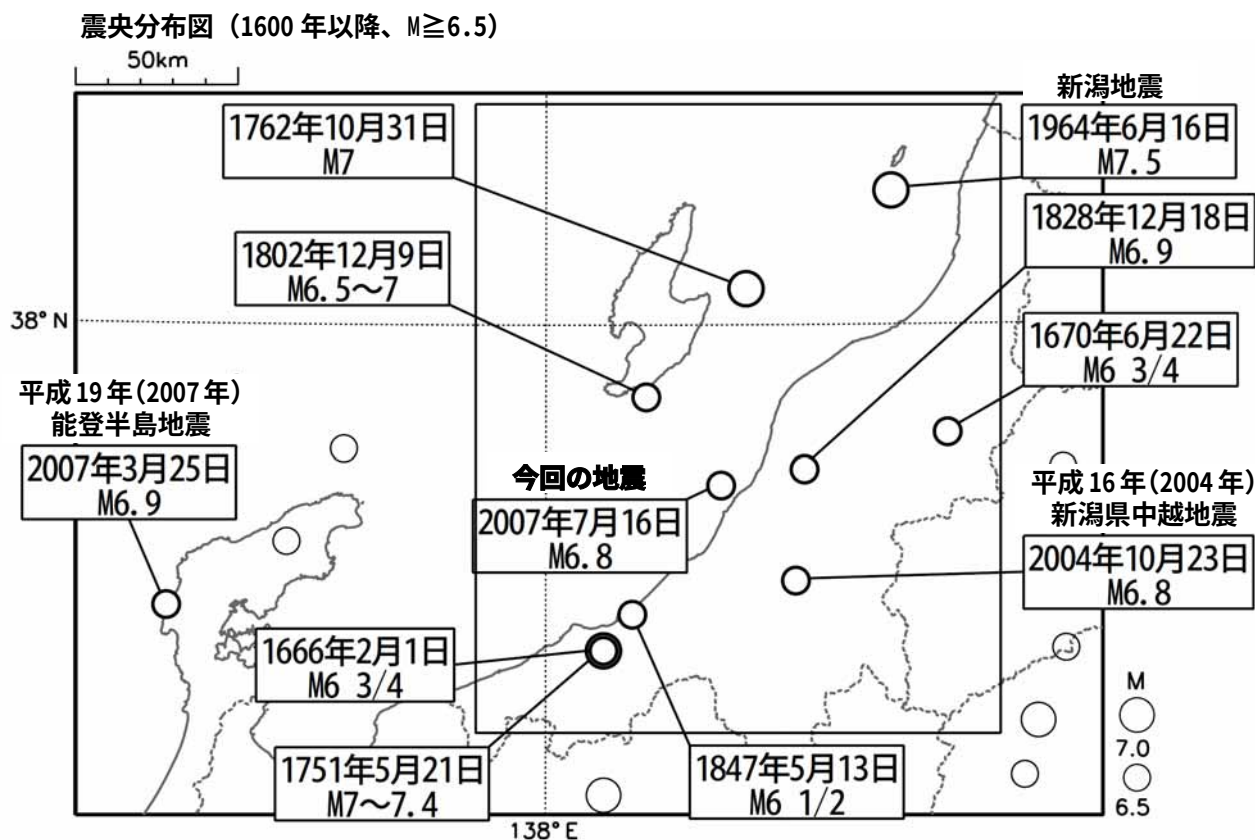
領域 b 内の地震活動経過図（左軸）
と地震回数積算図（右軸）



領域 b 内の時空間分布図（B - C 投影）

新潟県付近で発生した過去の主な地震

新潟県付近では、1600 年以降、M7 前後の地震が 10 個程度知られている。最大規模の地震は 1964 年 6 月 16 日に発生した新潟地震 (M7.5) である。今回の地震の近傍では 2004 年 10 月 23 日の新潟県中越地震 (M6.8) や 1828 年 12 月 18 日の M6.9 の地震 (三条地震) が発生している。



矩形内の地震および能登半島地震の発生年月日と M の値を吹き出しで示した。1600~1800 年代の地震の震央と M はおよそその推定である。新潟県中越地震の M6.5 の余震は除外した。

上図矩形内の地震により、新潟県で生じた主な被害

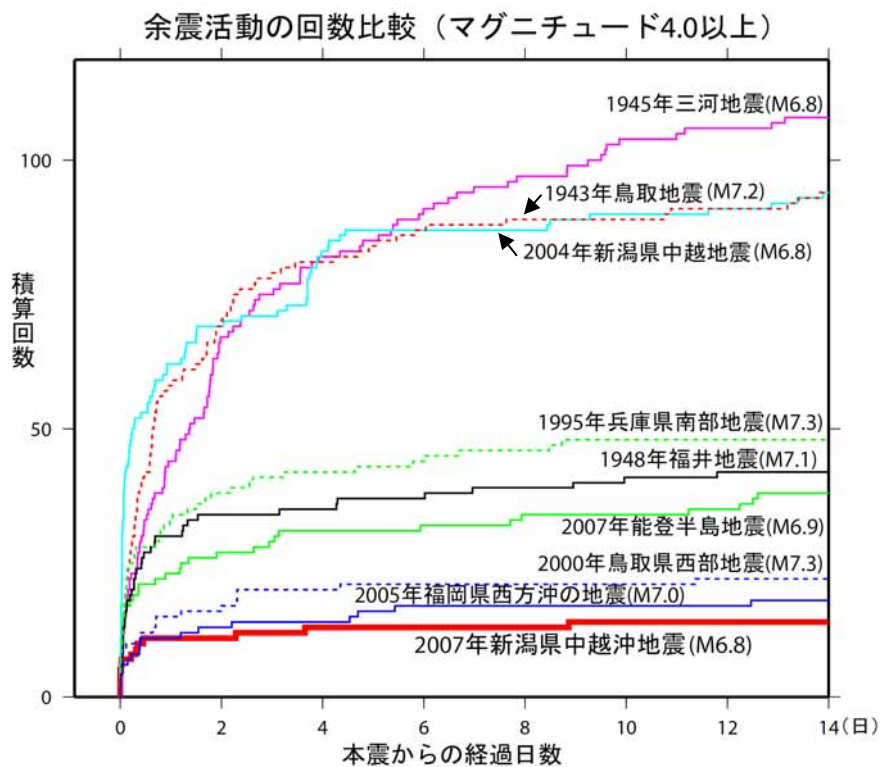
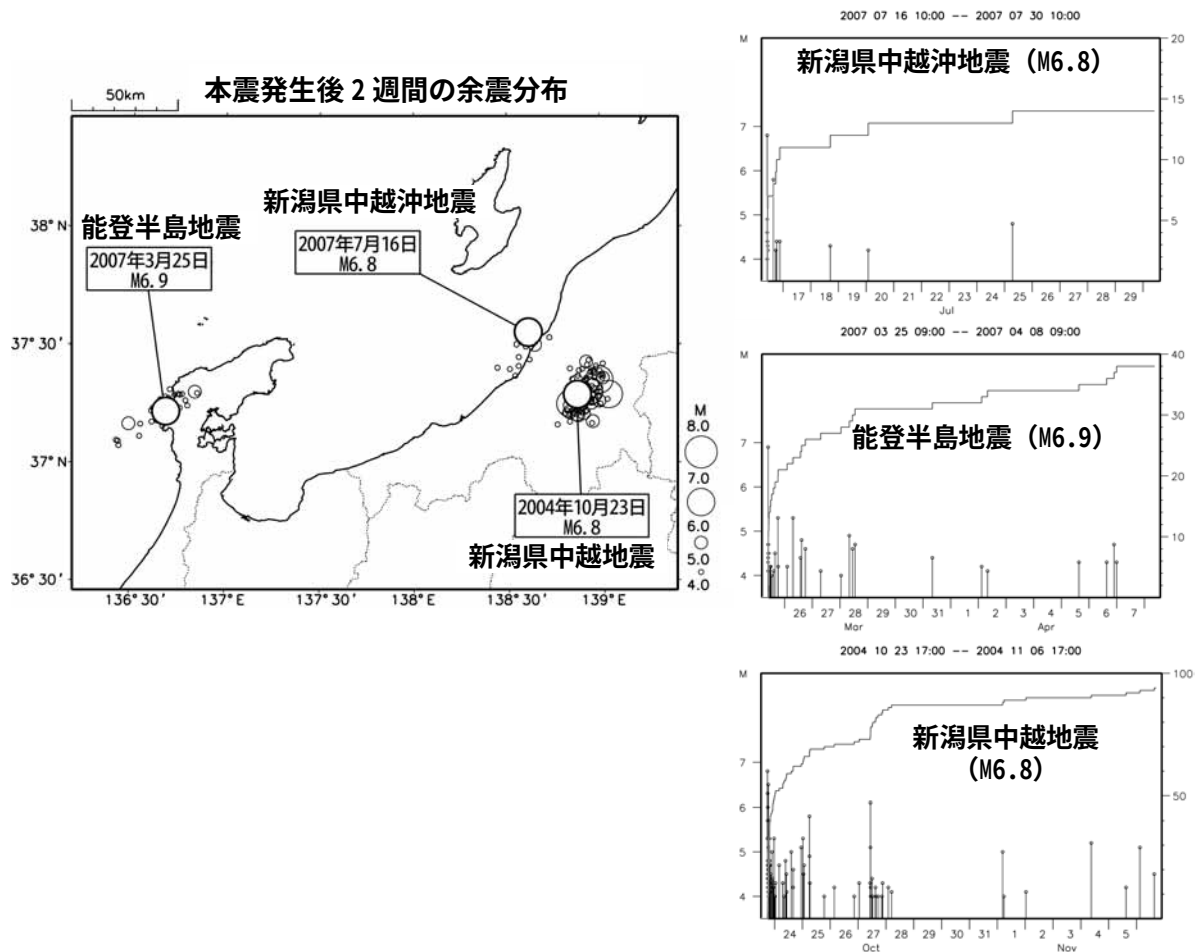
年月日	M	主な被害
1666. 2. 1	6 3/4	高田城破損。死者約1500、住家倒壊多数
1670. 6.22	6 3/4	上川4万石で、死者13、家屋全壊503
1751. 5.21	7~7.4	高田城破損、全体で死者2000、高田領の死者1128、家屋全壊および焼失6088
1762.10.31	7	石垣、家屋が損壊、死者があり。鵜島村で津波により家屋流失26
1802.12. 9	6.5~7	佐渡3郡全体で死者19、全壊家屋1150、同焼失328
1828.12.18	6.9	三条・見附・今町・与板などで被害。死者1400、家屋倒壊9800、同焼失1200
1847. 5.13	6 1/2	(善光寺地震の被害と区別できないところが多い)
1964. 6.16	7.5	新潟市内で地盤の流動、不同沈下による被害が著しかった。死者13、負傷者315、住家全壊1448、同全焼290
2004.10.23	6.8	死者67、住家全壊3175 (総務省消防庁による)

「日本の地震活動」, 1997, 地震調査委員会 に加筆

なお、1961 年 2 月 2 日に発生した長岡付近の地震 (M5.2、死者 5、家屋全壊 220) や 1995 年 4 月 1 日の新潟県下越地方の地震 (M5.6、負傷者 82、家屋全壊 55) など、M5 クラスの地震によって被害を伴うこともある。

余震発生状況の比較

余震の発生状況について、新潟中越地震（2004 年）、能登半島地震（2007 年）との比較を行った。本震発生後 2 週間の、 $M \geq 4.0$ の地震活動経過図を示した。



平成19年8月7日08時現在
気象庁地震火山部

平成19年(2007年)新潟県中越沖地震 最大震度別地震回数表(2007年7月16日10時00分～)

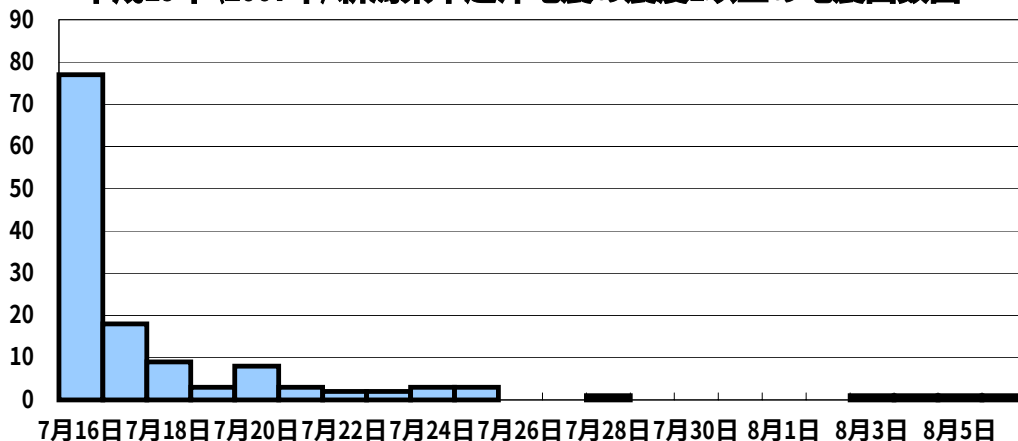
*この資料は速報値であり、後日の調査で変更することがあります。
*この回数は本震を含みます。

日 付	最大震度別回数										震度1以上の地震回数	
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7		回数	累計
7月16日	37	27	8	3	0	0	1	1	0		77	77
7月17日	11	7	0	0	0	0	0	0	0		18	95
7月18日	6	1	1	1	0	0	0	0	0		9	104
7月19日	3	0	0	0	0	0	0	0	0		3	107
7月20日	2	5	1	0	0	0	0	0	0		8	115
7月21日	2	1	0	0	0	0	0	0	0		3	118
7月22日	2	0	0	0	0	0	0	0	0		2	120
7月23日	1	1	0	0	0	0	0	0	0		2	122
7月24日	1	2	0	0	0	0	0	0	0		3	125
7月25日	1	1	0	1	0	0	0	0	0		3	128
7月26日	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	128
7月27日	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	128
7月28日	1	0	0	0	0	0	0	0	0		1	129
7月29日	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	129
7月30日	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	129
7月31日	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	129
8月1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	129
8月2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	129
8月3日	0	1	0	0	0	0	0	0	0		1	130
8月4日	0	1	0	0	0	0	0	0	0		1	131
8月5日	1	0	0	0	0	0	0	0	0		1	132
8月6日	0	0	1	0	0	0	0	0	0		1	133

H19.08/07

時間帯	最大震度別回数										震度1以上の地震回数	
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7		回数	累計
00:00 - 01:00											0	133
01:00 - 02:00											0	133
02:00 - 03:00											0	133
03:00 - 04:00											0	133
04:00 - 05:00											0	133
05:00 - 06:00											0	133
06:00 - 07:00											0	133
07:00 - 08:00											0	133
日累計	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	-
総計	68	47	11	5	0	0	1	1	0		—	133

回数(回) 平成19年(2007年)新潟県中越沖地震の震度1以上の地震回数図



新潟県中越沖地震で観測した津波

新潟県中越沖地震(M6.8)により、秋田県から石川県の沿岸で津波を観測した。検潮所で観測した津波の波形と観測値を以下に示す。最も高い津波が観測されたのは、柏崎と小木の0.3mであった。

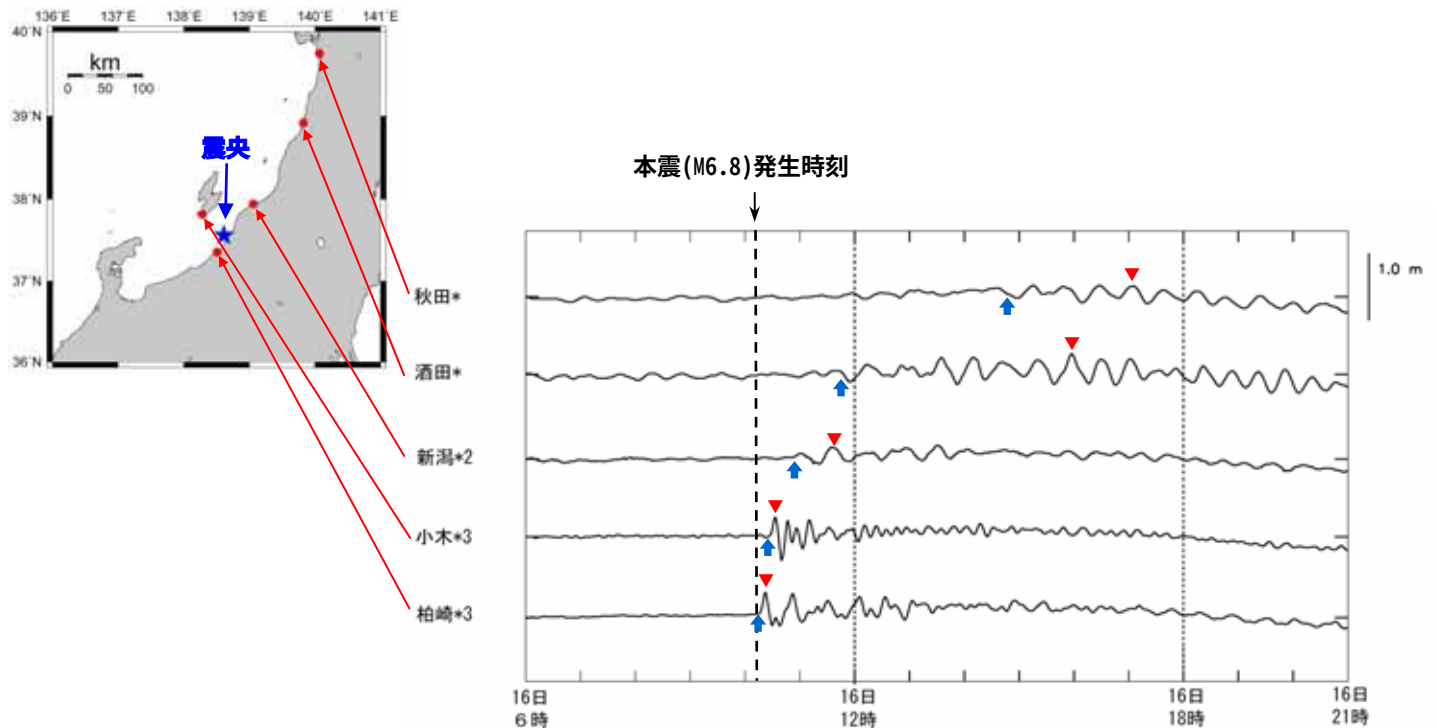


図1 検潮所の位置（左図）と検潮所で観測した津波の波形（右図）

右図において、点線は本震の発生時刻、▲は第一波の到達時刻、▼印は最大の高さの発現時刻を示す。（第一波の高さ、最大の高さがともに0.1m以上の津波を観測した検潮所のみ表示）
*は国土交通省東北地方整備局、*2は国土交通省北陸地方整備局、*3は国土交通省国土地理院の検潮所であることを示す。

表1 今回の地震に伴って観測した津波の観測値

観測点名	第一波		最大の高さ	
	到達時刻	高さ(m)	発現時刻	高さ(m)
秋田*	14時43分	-0.1	17時05分	0.1
酒田*	11時47分	-0.1	15時58分	0.2
新潟*2	10時53分	0.1	11時35分	0.1
小木*3	10時27分	0.3	10時33分	0.3
柏崎*3	10時16分	0.3	10時22分	0.3
鼠ヶ関*3	11時54分	微弱	14時22分	0.1
佐渡市鷺崎	10時39分	微弱	12時33分	0.1
輪島*3	—	—	17時36分	0.1
珠洲市長橋	—	—	12時41分	0.1
富山	10時44分	微弱	12時03分	0.1

今回の地震によって、津波を観測した検潮所における観測値を示している。

表中の一は、値が決定できないことを示す

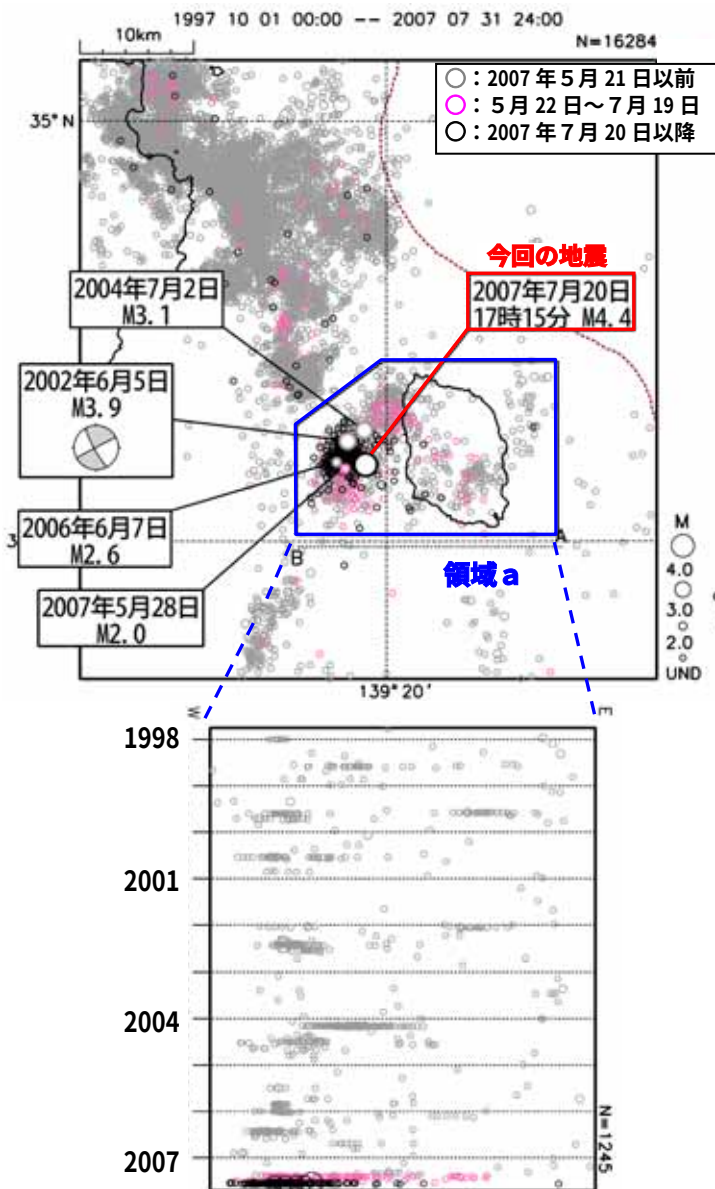
*：国土交通省東北地方整備局、*2：国土交通省北陸地方整備局

*3：国土交通省国土地理院

また、表中の値は暫定値であり、後日変更される場合がある。

7月20日 伊豆大島近海の地震活動

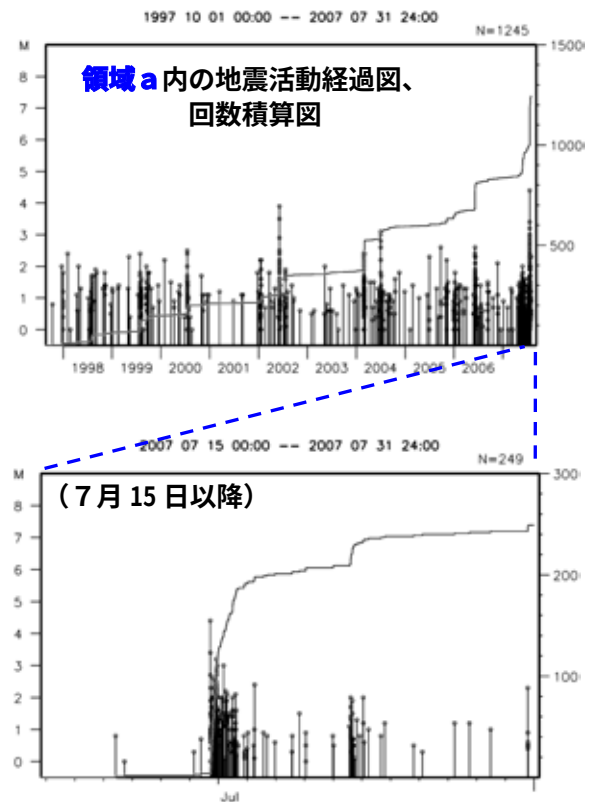
震央分布図（1997年10月以降、Mすべて）



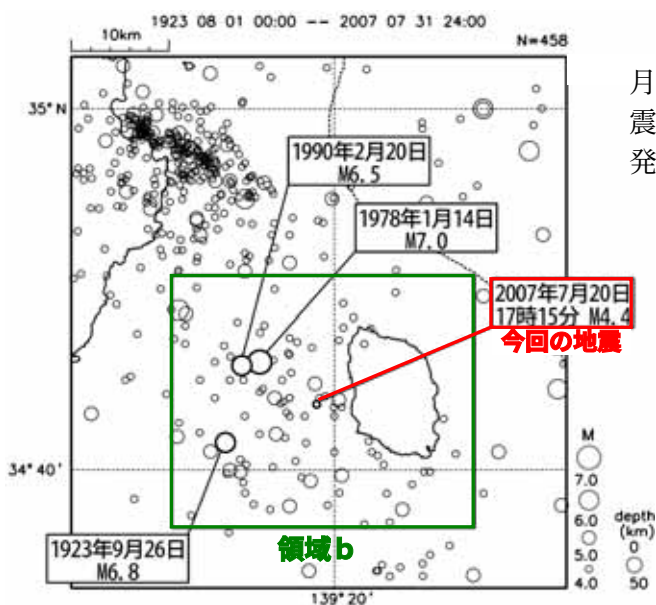
領域a内の時空間分布図（東西投影）

2007年7月20日17時15分に伊豆大島近海でM4.4（最大震度3）の地震があった。この地震の後にも、最大震度3を観測した地震が4回発生するなど、地震活動が一時活発となった。活動は消長しながら次第に収まってきている。

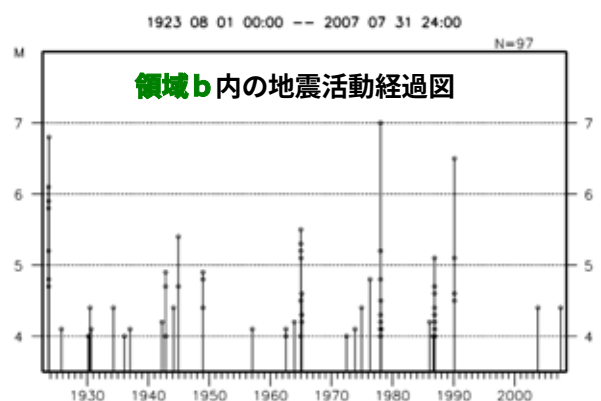
伊豆大島近海においては、2002年6月、2004年2月および7月、2006年6月にやや活発な活動があった。最近では、2007年5月頃から地震活動がやや活発な状態となっている。



震央分布図（1923年8月以降、M≥4.0）



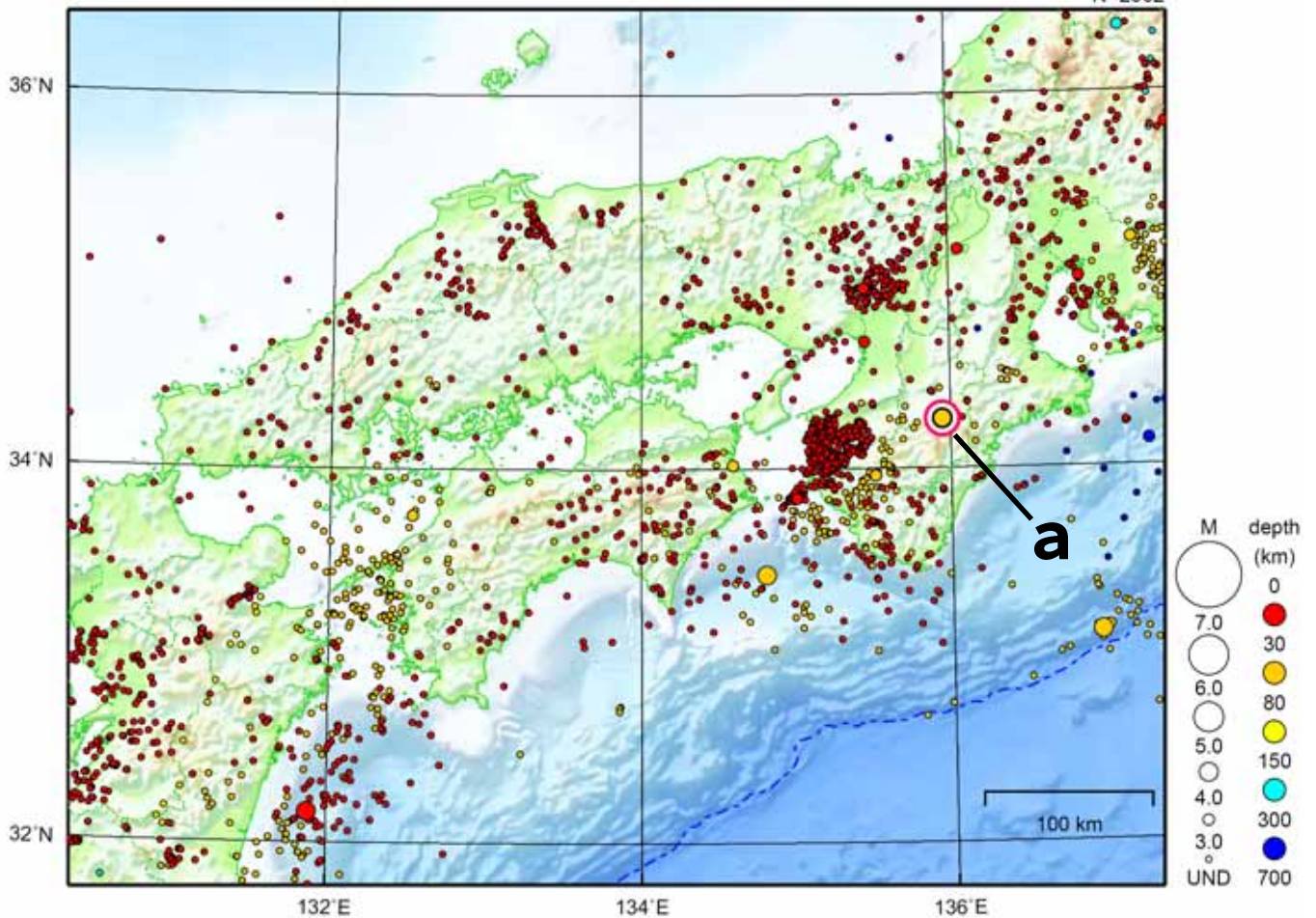
1923年8月以降、今回の活動域の西側では、1978年1月14日にM7.0（最大震度5、「1978年伊豆大島近海の地震」）、1990年2月20日にM6.5（最大震度4）の地震が発生するなど、比較的規模の大きな地震が発生している。



近畿・中国・四国地方

2007/07/01 00:00 ~ 2007/07/31 24:00

N=2862



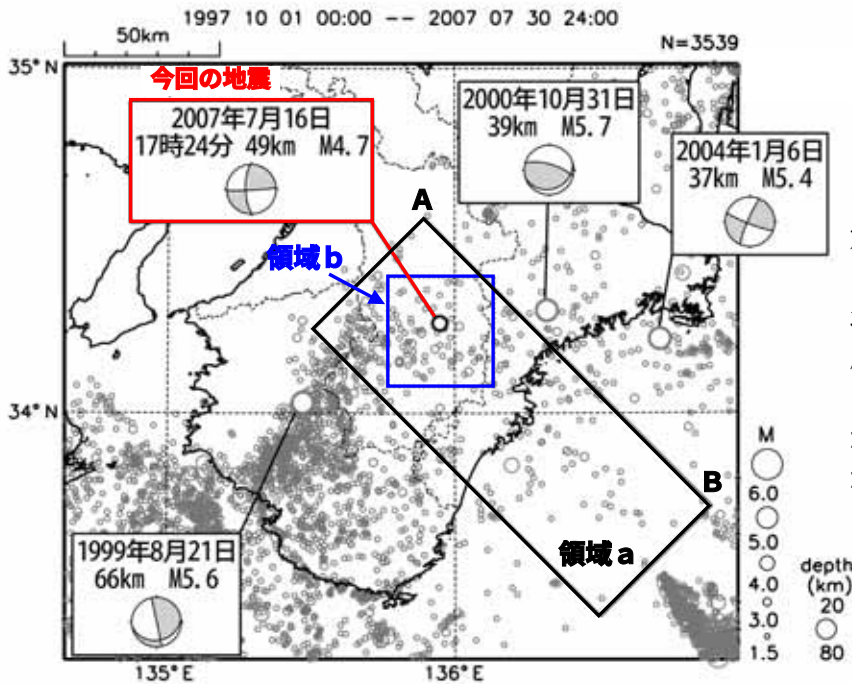
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- a) 7月16日に奈良県で M4.7 (最大震度3) の地震があった。
 - b) 7月16日に京都府沖で M6.7 (最大震度4) の地震があった。
- (震央は上図の範囲外。関東・中部地方の震央分布図を参照のこと)

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

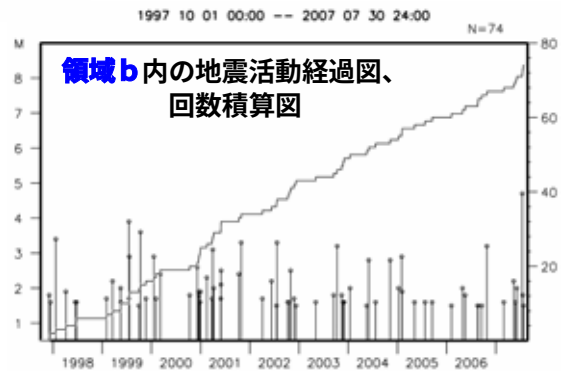
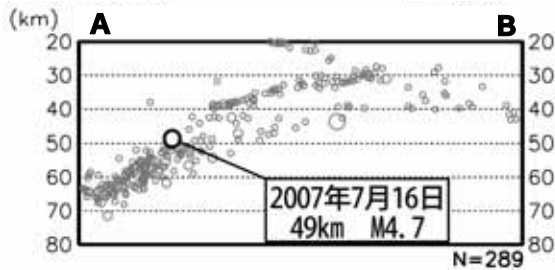
7月16日 奈良県の地震

震央分布図（1997年10月以降、 $M \geq 1.5$ 、深さ 20~80km）

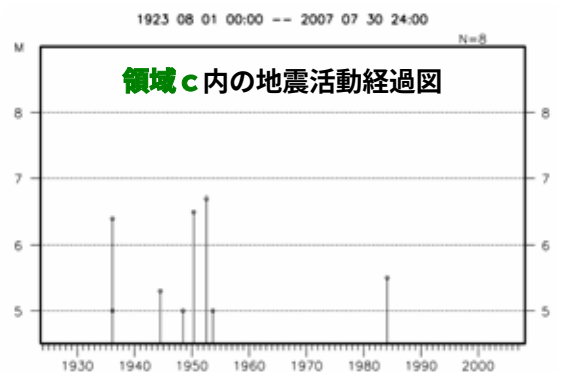
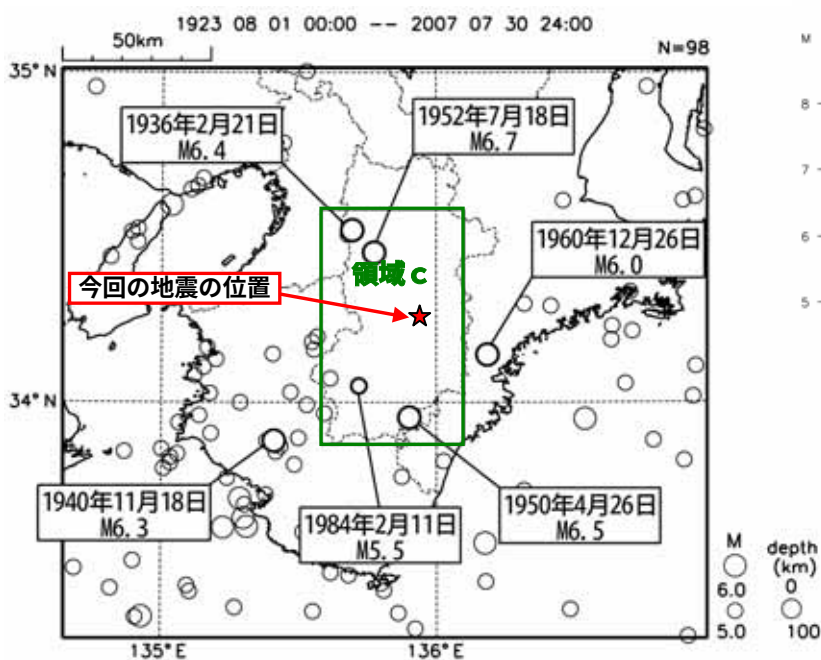


2007年7月16日17時24分に奈良県の深さ49kmでM4.7（最大震度3）の地震が発生した。この地震はフィリピン海プレート内部の地震である。発震機構は北東-南西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型であった。今回の地震の震源付近では、1997年10月以降、 $M3.0$ 以上の地震が年に1回程度の割合で発生しているが、 $M4.0$ 以上の地震は珍しい。

領域a内の断面図（A-B投影）



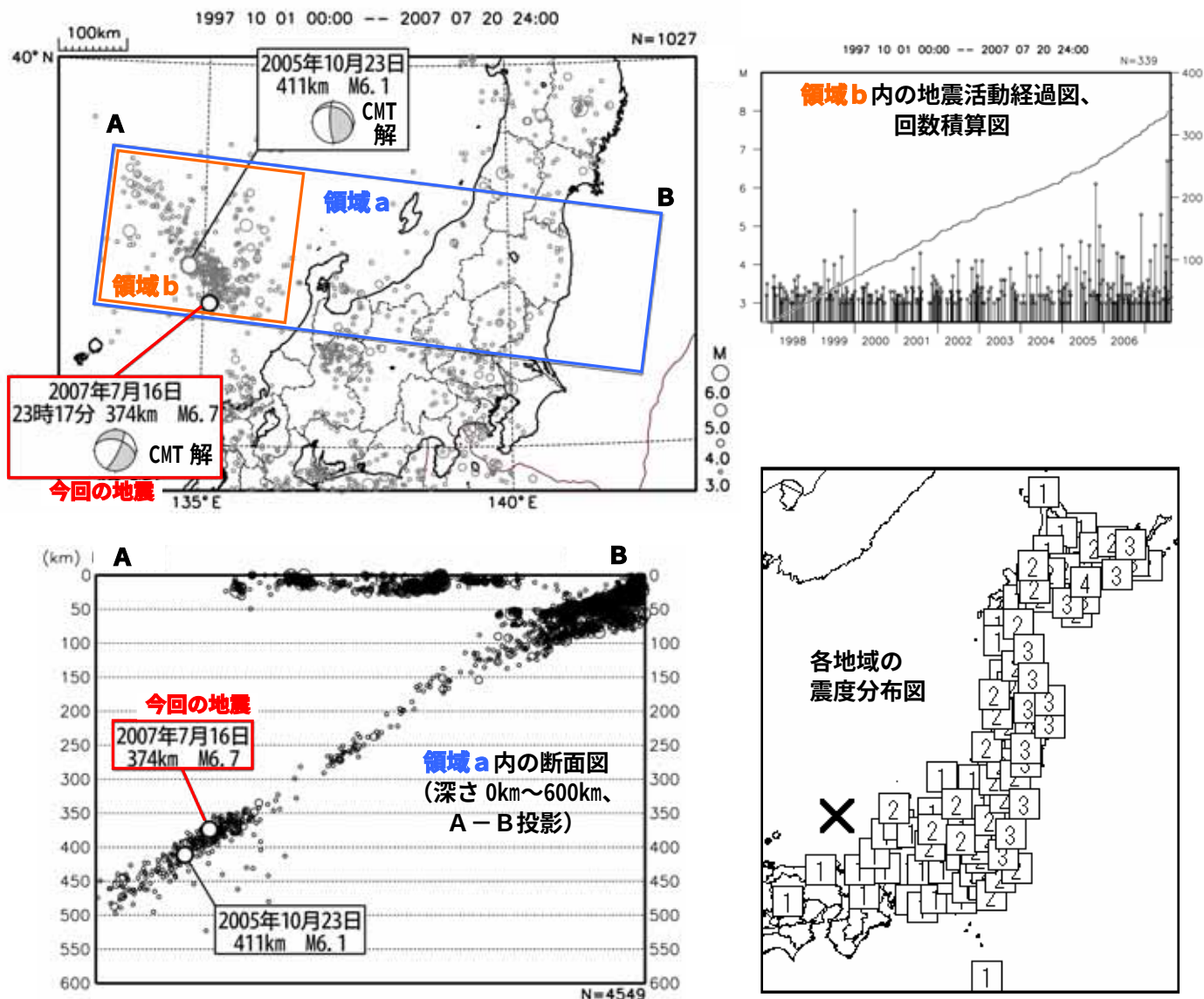
震央分布図（1923年8月以降、 $M \geq 5.0$ ）



1923年8月以降の $M5.0$ 以上の地震活動をみると、奈良県付近では、1944年の東南海地震および1946年の南海地震の前後でM6クラスの地震を含む活動が見られる。それら以外では、1984年2月11日の地震（ $M5.5$ ）が1回観測されているのみである。今回の地震の震央近傍では $M5.0$ 以上の地震は観測されていない。

7月16日 京都府沖の深発地震

A 震央分布図 (1997年10月以降、 $M \geq 3.0$ 、深さ 100km~600km)



B 震央分布図 (1923年8月以降、 $M \geq 6.0$ 、深さ 300km 以深)



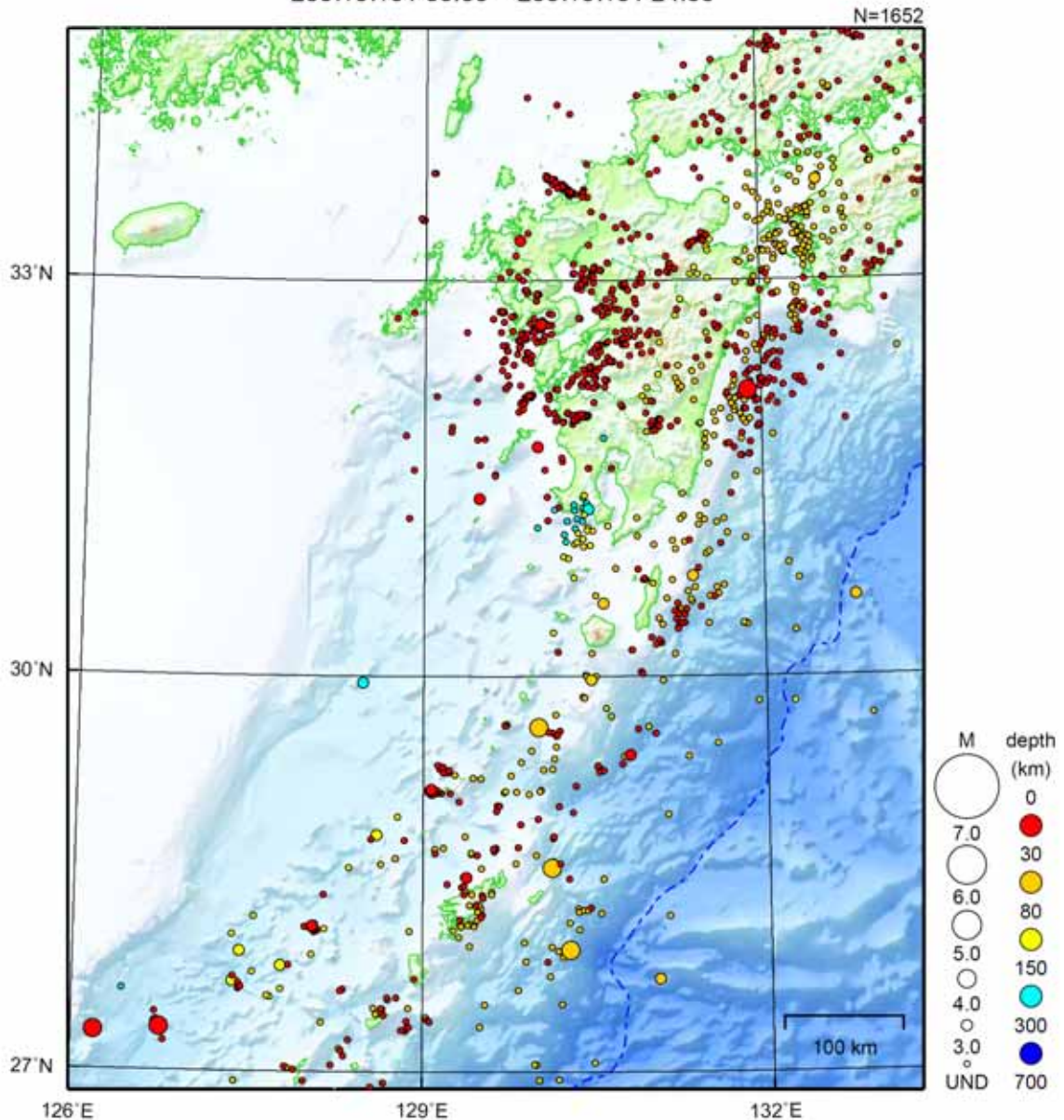
2007年7月16日23時17分に京都府沖の深さ374kmでM6.7(最大震度4)の深発地震が発生した。発震機構は(CMT解)はプレートの沈み込みの方向に圧力軸を持つタイプであった。震度分布は地震波が減衰の小さい太平洋プレート内を通ってくる太平洋側で大きく、震度4は北海道の浦幌町で観測された。

今回の地震の震源付近では深発地震が数多く発生しており、2005年10月23日にもM6.1の地震が発生するなど、最近やや規模の大きな地震が目立っている。(A)

1923年8月以降の深発地震の発生状況を見ると、大陸側と太平洋側ではM7クラスの深発地震が発生しているが、京都府沖付近では今回の地震が最大規模で、M7.0以上は観測されていない。(B)

九州地方

2007/07/01 00:00 ~ 2007/07/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

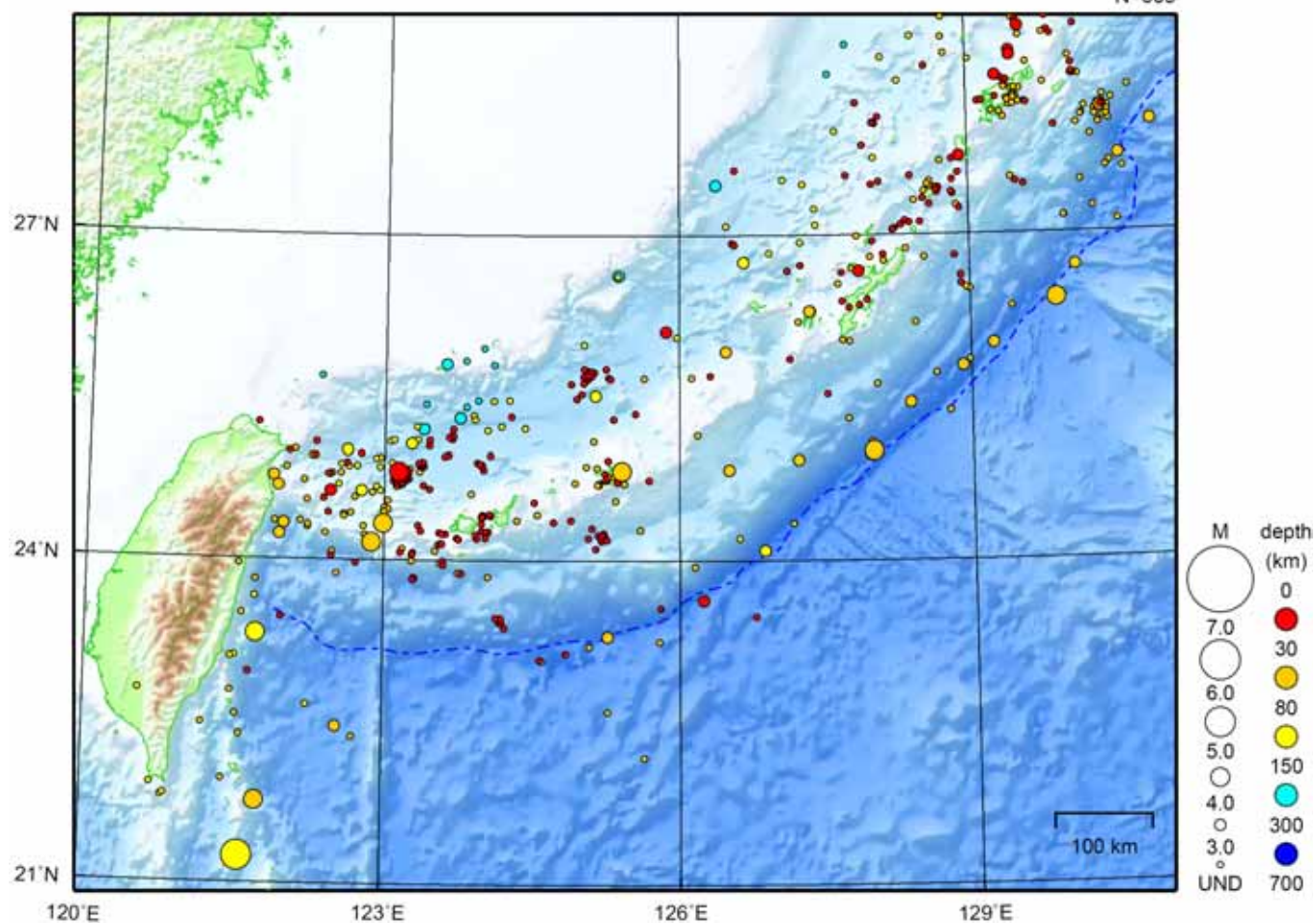
[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

沖縄地方

2007/06/01 00:00 ~ 2007/06/30 24:00

N=609



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

(上記期間外)

8月1日に沖縄本島北西沖で M6.1 (最大震度 3) の地震があった。

8月7日に沖縄本島北西沖で M6.4 (速報値) (最大震度 3) の地震があった。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

●東海地震の想定震源域及びその周辺の地震活動

[概況]

20日に静岡県西部の地殻内でM3.9（最大震度2）の地震が発生した。

[地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会検討結果]

7月30日に気象庁において第254回地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会（定例会）を開催し、気象庁は「最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動」として次のコメントを発表した（図3～図5）。

現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。

全般的には顕著な地震活動はありません。静岡県中部ではプレート内で通常より活動レベルが低く、地殻内ではやや高い状態になっていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。

東海地域及びその周辺の地殻変動には注目すべき特別な変化は観測されていません。

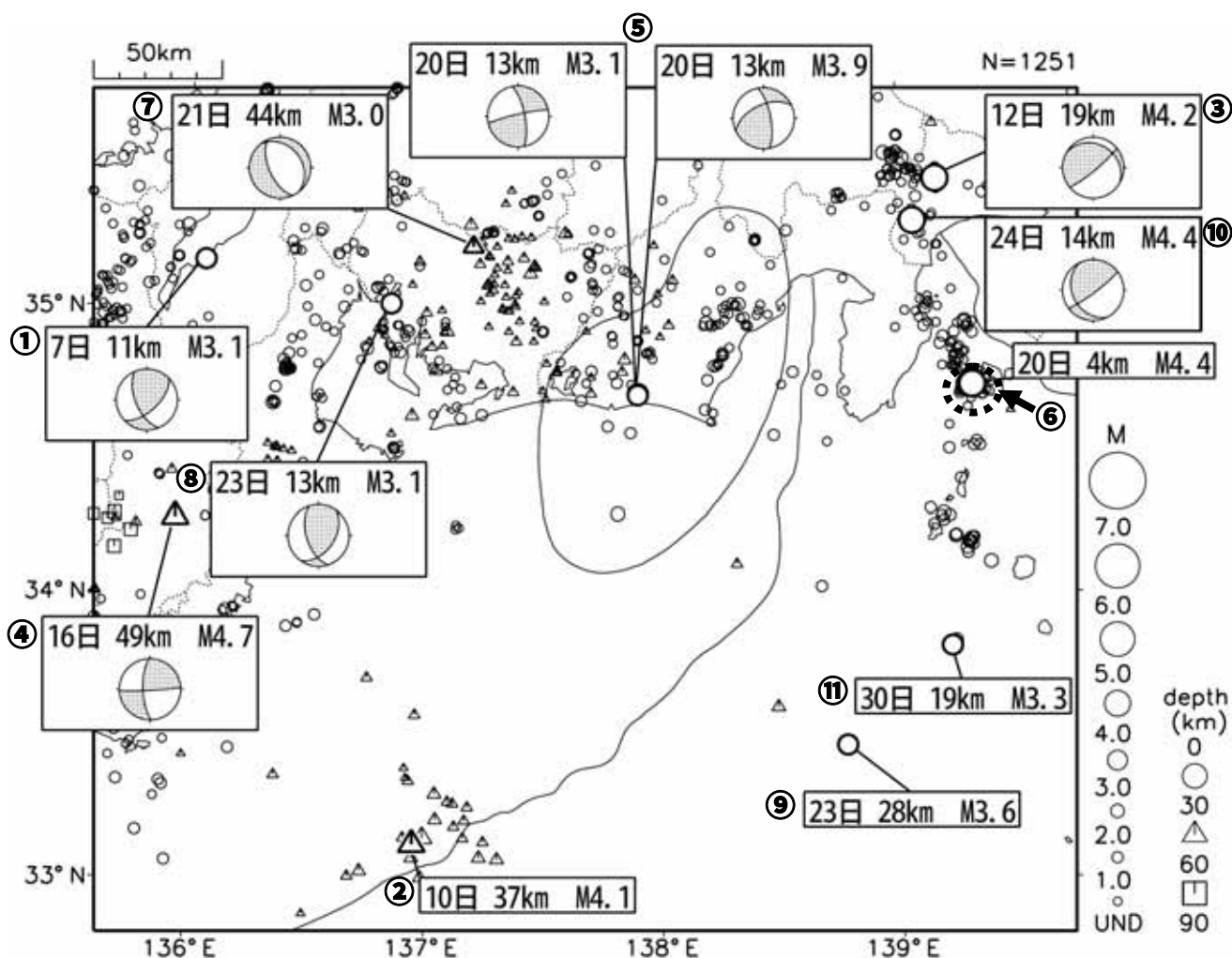


図1 震央分布図（2007年7月1日～31日：深さ90km以浅、Mすべて。M3.0以上の地震（東海道沖及び伊豆大島近海はM4.0以上）に「日、深さ、M」を付けた。すぐ下の図はP波初動による発震機構（下半球投影）。図中のナス型の領域は東海地震の想定震源域。）

- ① 7日00時35分、滋賀県南部の深さ11kmでM3.1の地震があり、最大震度2を観測した。発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ型（横ずれ成分を含む逆断層型）で、陸域の地殻内で発生した地震である。
- ② 10日02時19分、三重県南東沖の深さ37km

- でM4.1の地震が発生した。
- ③ 12日05時29分、神奈川県西部の深さ19kmでM4.2の地震があり、最大震度3を観測した。発震機構は北北西－南南東方向に圧力軸を持つ型（横ずれ成分を含む逆断層型）で、フィリピン海プレートと陸のプレートが衝突して

いると考えられている場所で発生した地震である。

- ④ 16日17時24分、奈良県の深さ49kmでM4.7の地震があり、最大震度3を観測した。発震機構は北東―南西方向に張力軸を持つ横ずれ断層型で、フィリピン海プレート内で発生した地震である。
- ⑤ 静岡県西部の深さ13kmで20日02時33分と02時38分にそれぞれM3.9とM3.1の地震があり、どちらも最大震度2を観測した。発震機構は02時33分の地震が西北西―東南東に圧力軸を持つ型（横ずれ成分を含む逆断層型）であり、02時38分の地震が北西―南東に圧力軸を持つ横ずれ断層型であった。陸域の地殻内で発生した地震である。
- ⑥ 20日17時15分、伊豆大島近海の深さ4kmでM4.4の地震があり、最大震度3を観測した。この地震以後、震度3以上を観測した地震が4回発生するなど、地震活動は一時活発であったが、次第に収まってきている。

- ⑦ 21日12時13分、愛知県西部の深さ44kmでM3.0の地震があり、最大震度1を観測した。発震機構は東北東―西南西方向に張力軸を持つ正断層型で、フィリピン海プレート内で発生した地震である。
- ⑧ 23日00時54分、伊勢湾の深さ13kmでM3.1の地震があり、最大震度2を観測した。発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、陸域の地殻内で発生した地震である。
- ⑨ 23日10時43分、東海道南方沖の深さ28kmでM3.6の地震が発生した。
- ⑩ 24日11時38分、神奈川県西部の深さ14kmでM4.4の地震があり、最大震度3を観測した。発震機構は西北西―東南東方向に圧力軸を持つ型（横ずれ成分を含む逆断層型）であった。
- ⑪ 30日21時32分、三宅島近海の深さ19kmでM3.3の地震が発生した。

注：本文中の番号は、図1中の数字に対応する。

[東海地域の地震活動の頁で使われる用語]

・「想定震源域」(図1)と「固着域」(図3、4)

東海地震発生時には、「固着域」(プレート間が強く「くっついている」と考えられている領域)あるいはその周辺の一部からゆっくりしたずれ(前兆すべり)が始まり、最終的には「想定震源域」全体が破壊すると考えられている。

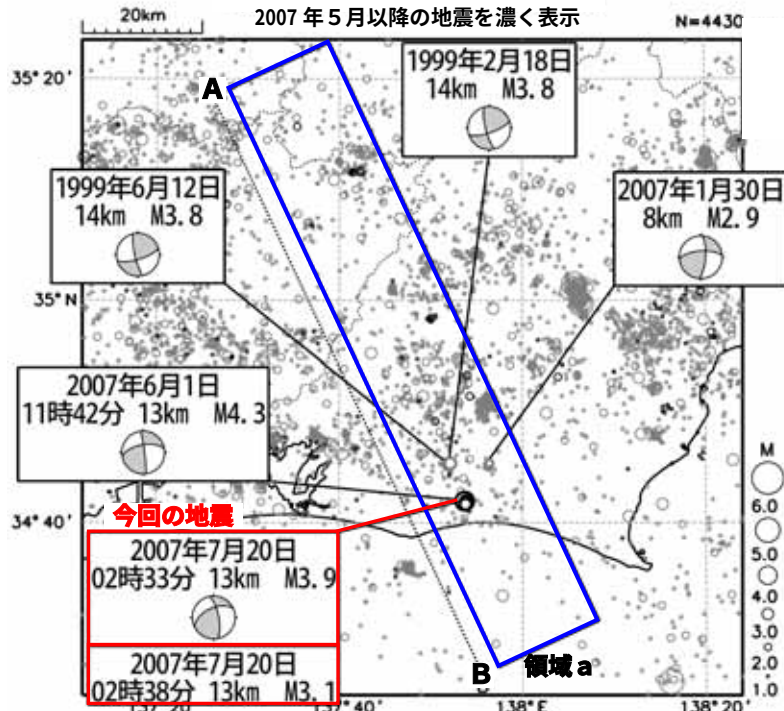
・「クラスタ除去」(図3、4、5)

地震は時間空間的に群(クラスタ: cluster)をなして起きることが多くある。「本震とその後に起きる余震」、「群発地震」などが典型的な群(クラスタ)で、余震活動等の影響を取り除いて地震活動全体の推移を見ることを「クラスタ除去」と言う。震央距離が3km以内、発生時間差が7日以内の地震をクラスタと見なし、最大地震で代表させている。

大規模な地震から国民の生命・財産を保護することを目的として、昭和53年(1978年)12月に施行された「大規模地震対策特別措置法」では、大規模な地震の発生のおそれがあり、その地震によって大きな被害が予想されるような地域をあらかじめ「地震防災対策強化地域(以下、「強化地域」という。))として指定し、地震予知のための観測施設の整備を強化し、あらかじめ地震防災に関する計画をたてる等、各種の措置を講じることとしている。強化地域は平成14年(2002年)4月に見直しが行われ、現在、静岡県全域と東京都、神奈川・山梨・長野・岐阜・愛知及び三重の各県にまたがる173市町村(平成19年4月現在)が強化地域に指定されている。強化地域では、マグニチュード8クラスと想定されている大地震(東海地震)が起こった場合、震度6弱以上(一部地域では震度5強程度)になり、沿岸では大津波の来襲が予想されている。気象庁では東海地震の直前の前兆現象を捕らえるため、地震、地殻変動等の観測データを常時監視している。

7月20日 静岡県西部の地震

震央分布図（1997年10月1日～2007年7月24日、
深さ0～60km、 $M \geq 1.0$ ）

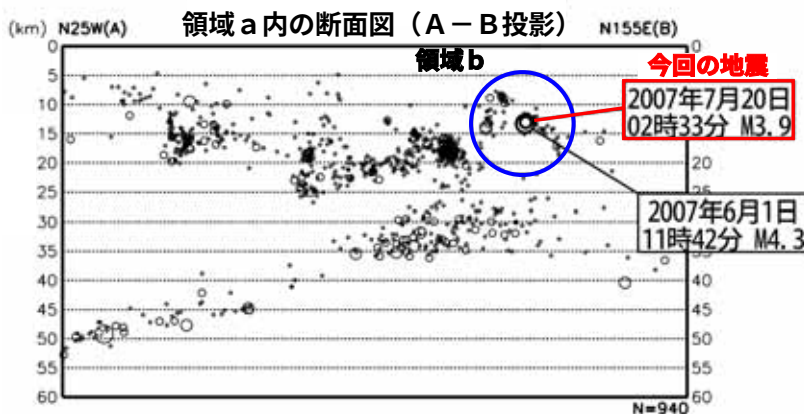
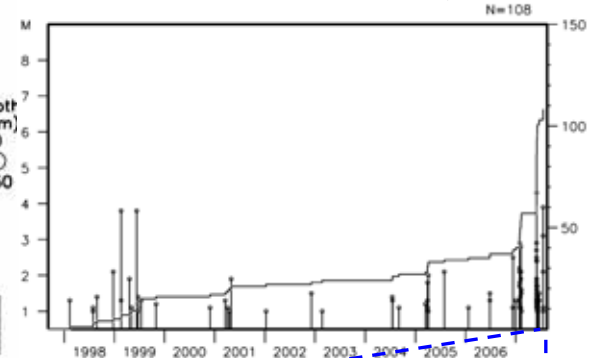


2007年7月20日02時33分に静岡県西部の深さ13kmでM3.9（最大震度2）の地震が発生した。発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ型で、地殻内で発生した地震である。02時38分にはM3.1（最大震度2）の地震が発生するなど、22日までに余震が12回観測されたが、以後収まっている。

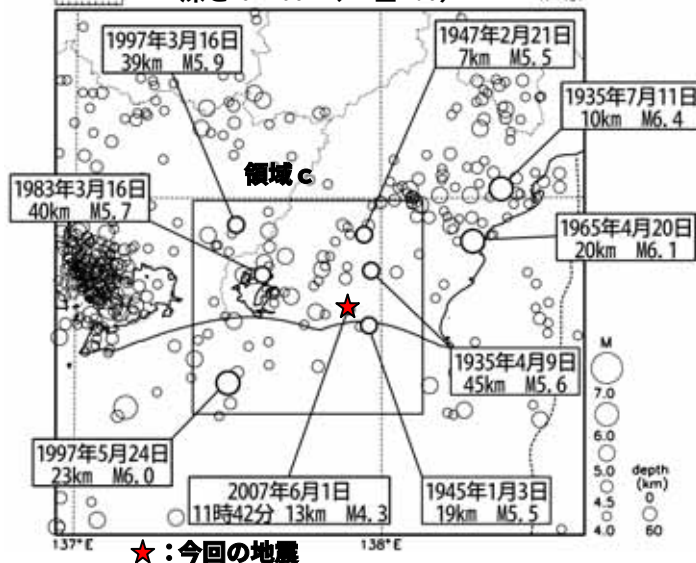
今回の地震の震源付近では、2007年6月1日にM4.3（最大震度4）の地震が発生している。

1923年8月以降、今回の地震の震央付近では、M6.0程度の地震が時々発生している。

領域b内の地震活動経過図、回数積算図

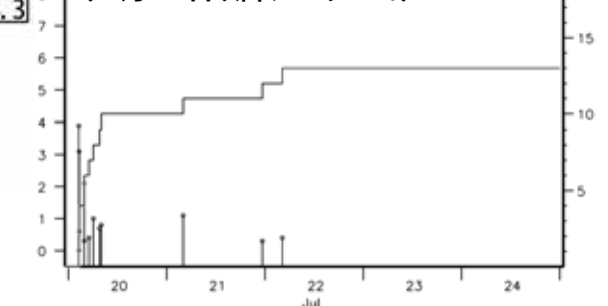


震央分布図（1923年8月1日～2007年7月24日、
深さ0～60km、 $M \geq 4.0$ ）



★：今回の地震

（7月20日以降、Mすべて）



領域c内の地震活動経過図

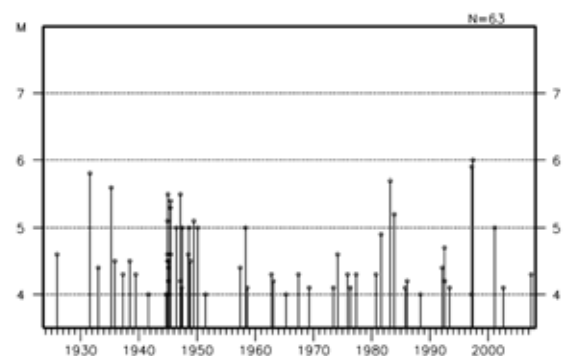


図2 静岡県西部の地震

東海地域の地震活動指数 (クラスタを除いた地震回数による)

2007年7月25日 現在

	① 固着域		② 愛知県		③ 浜名湖			④ 駿河湾
	地殻内	フィリ ピン海 プレート	地殻内	フィリ ピン海 プレート	フィリピン海プレート内			全域
					西側	全域	東側	
短期活動指数	5	6	5	8	3	6	7	4
短期地震回数 (平均)	7 (6.31)	8 (5.90)	15 (13.23)	24 (14.08)	1 (2.46)	8 (5.91)	7 (3.45)	5 (6.06)
中期活動指数	8	4	5	5	1	3	5	1
中期地震回数 (平均)	31 (18.93)	18 (17.69)	44 (39.68)	46 (42.24)	1 (4.93)	9 (11.82)	8 (6.90)	6 (12.12)

* Mしきい値：

M $\geq$ 1.1：固着域、愛知県、浜名湖、M $\geq$ 1.4：駿河湾

* クラスタ除去：

震央距離が Δr 以内、発生時間差が Δt 以内の地震をグループ化し、最大地震で代表させる。

$\Delta r=3\text{km}$ 、 $\Delta t=7\text{日}$ ：固着域、愛知県、浜名湖

$\Delta r=10\text{km}$ 、 $\Delta t=10\text{日}$ ：駿河湾

* 対象期間：

短期：30日間（固着域、愛知県）、90日間（浜名湖、駿河湾）

中期：90日間（固着域、愛知県）、180日間（浜名湖、駿河湾）

* 基準期間：

1997年－2001年（5年間）：固着域、愛知県、1998年－2000年（3年間）：浜名湖

1991年－2000年（10年間）：駿河湾

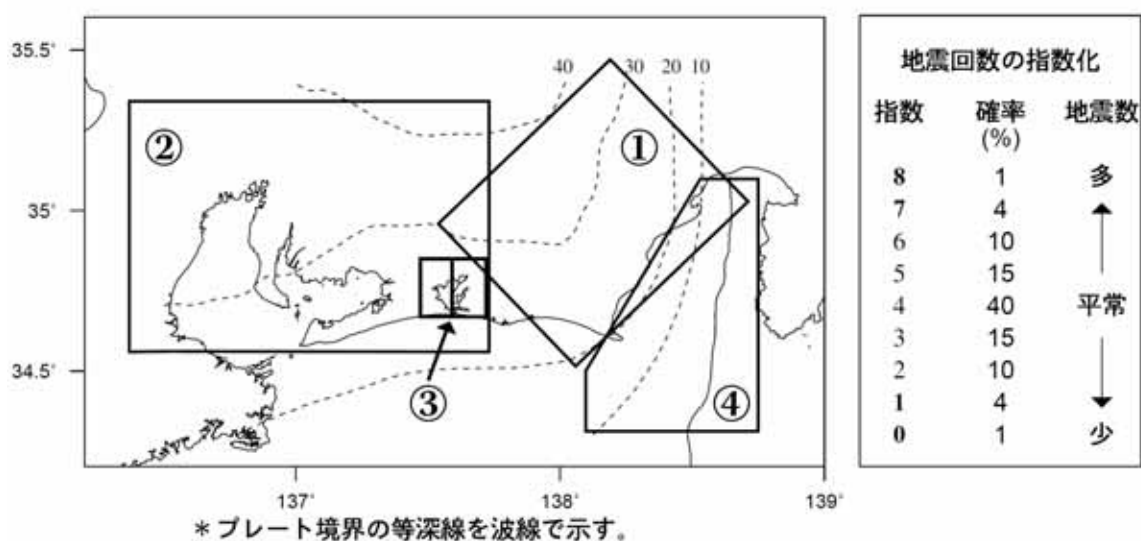


図3 東海地域の地震活動指数

浜名湖は活動指数の低い状態が継続していたが、今期は東側のみ短期指数が7（やや高い）に上がった。固着域の地殻内は中期活動指数が高い。それ以外の地域は、愛知県フィリピン海プレート内の短期指数が高かった他は、ほぼ平常の活動であった。

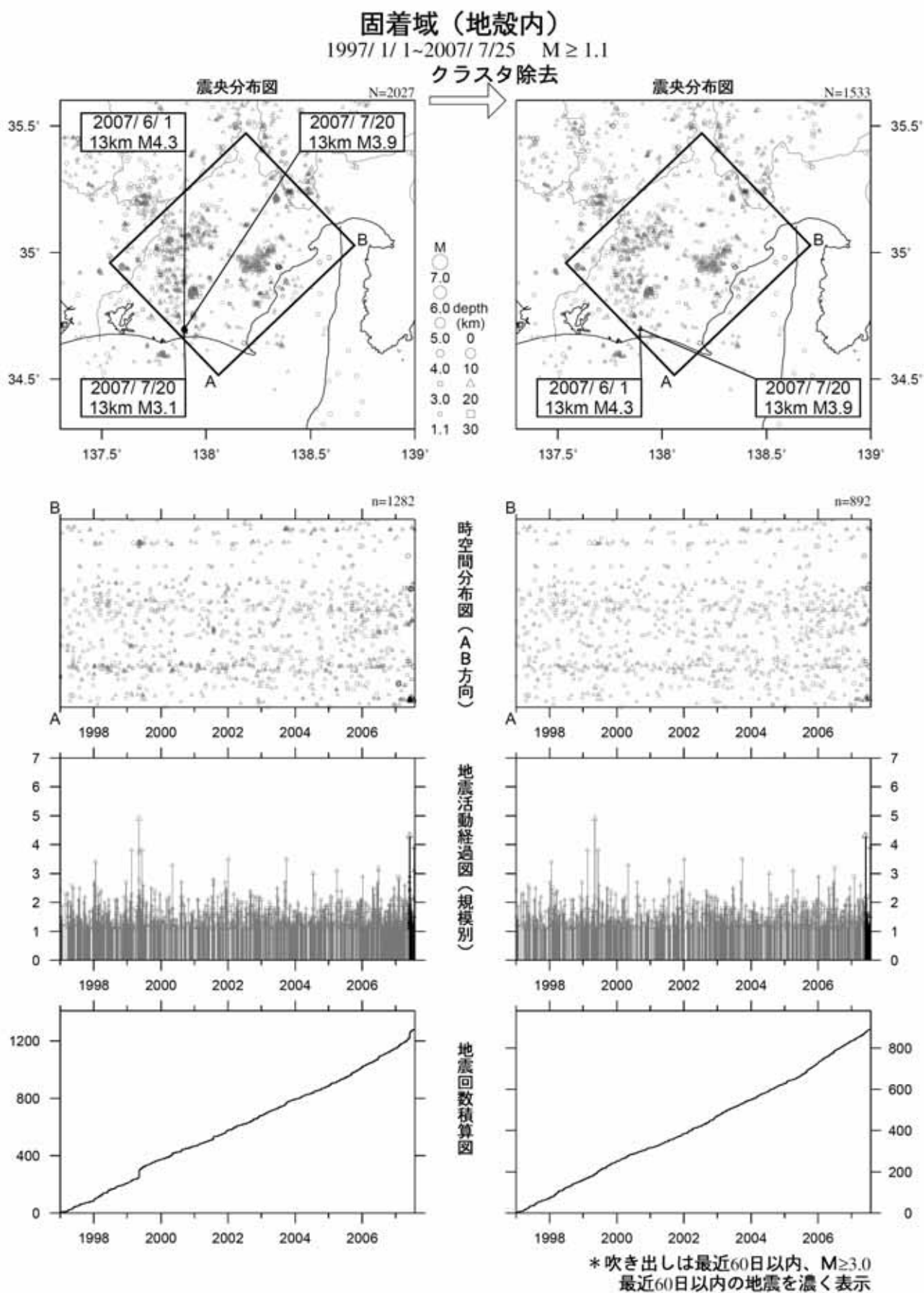


図4 固着域の地殻内の地震活動

クラスタ除去後の地震回数積算図（右下）を見ると、2000年半ばまでは傾きが急で活発、その後2005年半ばまでは低調、その後は再び活発という傾向が見られる。

浜名湖（フィリピン海プレート内）

1995/ 1/ 1~2007/ 7/25 M ≥ 1.1 * クラスタ除去したデータ

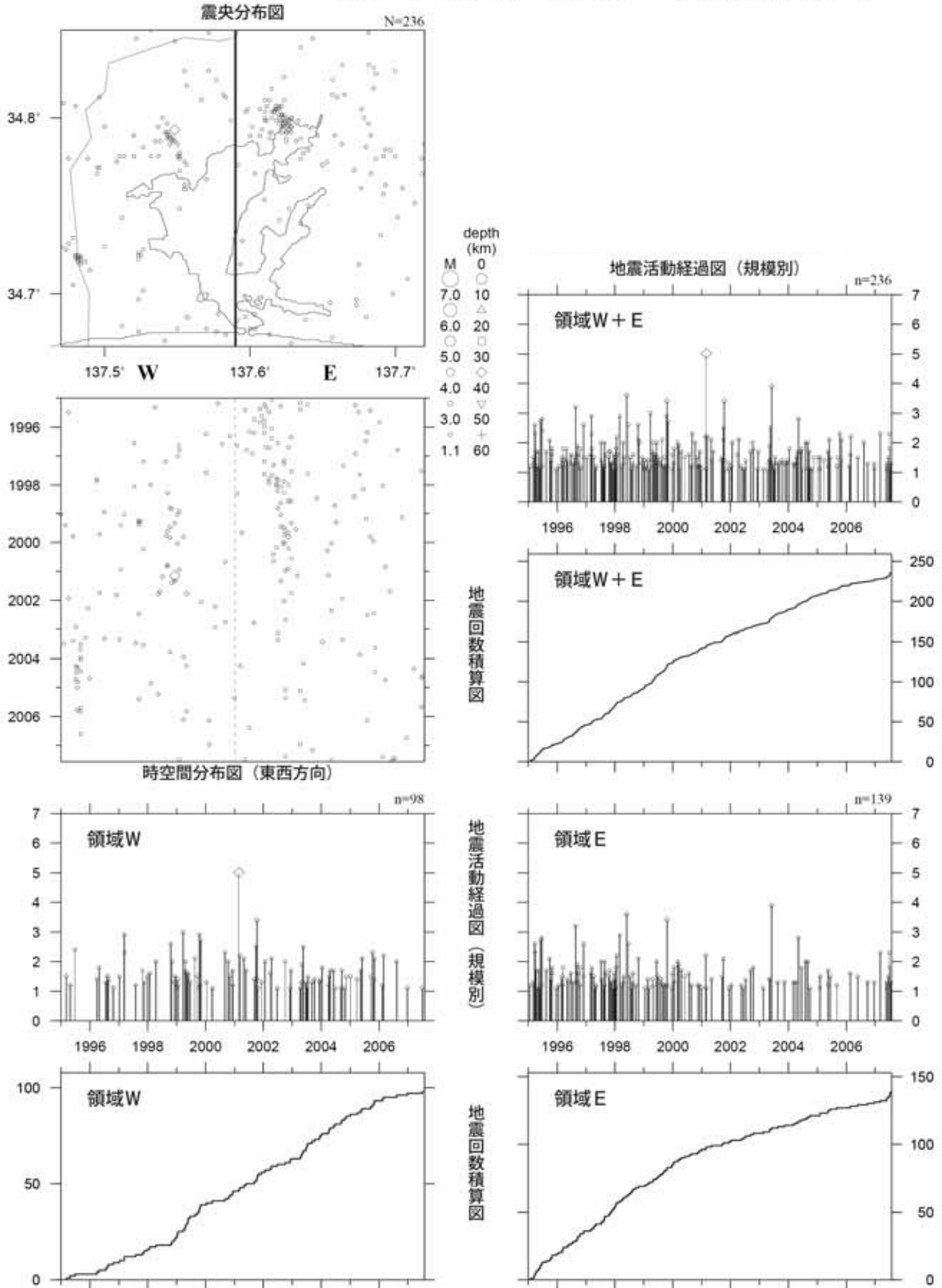


図5 浜名湖付近のフィリピン海プレート内の地震活動

領域Eでは2000年終わりごろからの活動の低下が継続していた中、最近90日間で7回地震が発生した。領域Wは2006年以降、活動が低下した状況である。

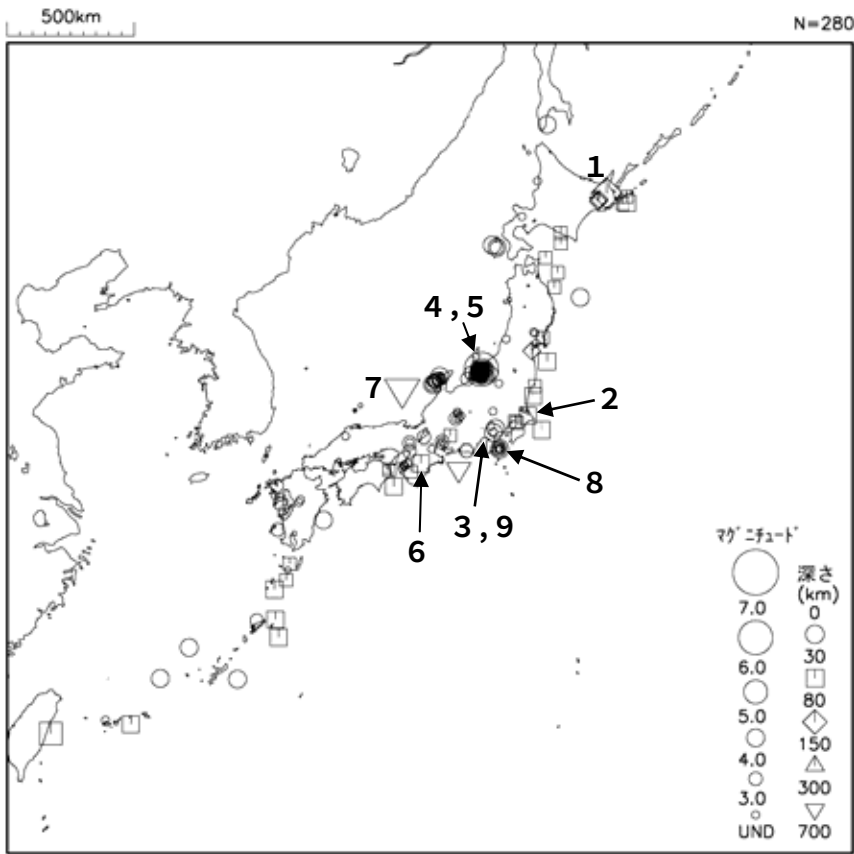


図1 2007年7月に震度1以上を観測した地震
(図中の番号は、別紙1の表のNoに対応する地震)

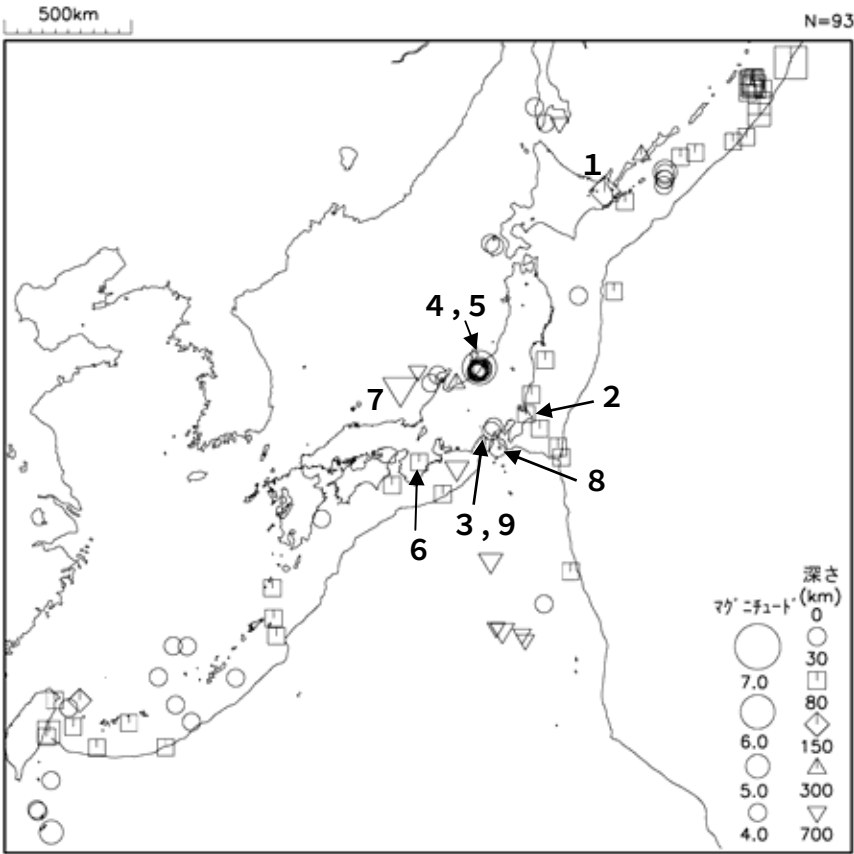


図2 2007年7月に発生したM4.0以上の地震
(図中の番号は、別紙1の表のNoに対応する地震)

総数：12,114

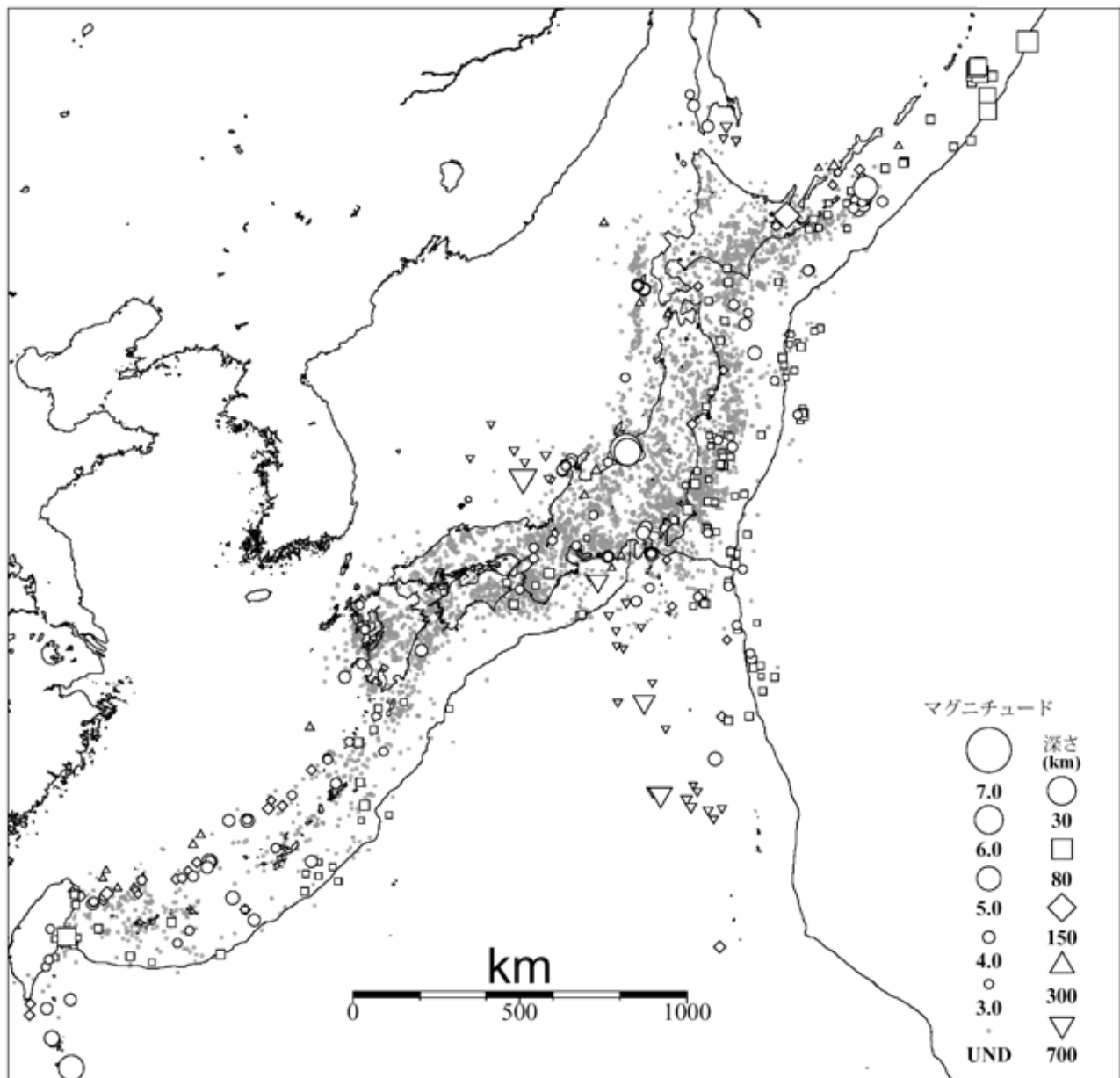


図3 気象庁が震源を決定した日本付近の2007年7月の地震の震央分布
(M3.0以上の地震については白抜きで示す)

● 表 1．過去 1 年間に震度 1 以上を観測した地震の最大震度別の月別回数
 ＜平成 18 年（2006 年）7 月～平成 19 年（2007 年）7 月＞

	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	計	記事
2007年 7 月	169	79	23	7			1	1		280	平成19年(2007年)新潟県中越沖地震とその余震 (震度 6 強：1 回、震度 6 弱：1 回、 震度 4：5 回、震度 3：10 回、 震度 2：45 回、震度 1：67 回) 伊豆大島近海（震度 3：5 回、 震度 2：6 回、震度 1：25 回）
2007年 6 月	126	47	13	9						195	大分県中部（震度 4：3 回、震度 3：6 回、 震度 2：16 回、震度 1：39 回） 平成19年(2007年)能登半島地震の余震 (震度 4：1 回、震度 3：1 回、 震度 2：3 回、震度 1：6 回)
2007年 5 月	92	37	10	3						142	平成19年(2007年)能登半島地震の余震 (震度 4：1 回、震度 2：9 回、 震度 1：20 回)
2007年 4 月	135	47	23	7		1				213	15日 三重県中部（震度 5 強） 平成19年(2007年)能登半島地震の余震 (震度 4：1 回、震度 3：7 回、 震度 2：20 回、震度 1：66 回)
2007年 3 月	280	105	35	8	3			1		432	平成19年(2007年)能登半島地震とその余震 (震度 6 強：1 回、震度 5 弱：3 回、 震度 4：6 回、震度 3：25 回、 震度 2：74 回、震度 1：213 回)
2007年 2 月	62	21	3	1						87	
2007年 1 月	63	28	10	1						102	新島・神津島近海 (震度 2：3 回、震度 1：11 回)
2006年12月	82	46	14	3						145	新島・神津島近海（震度 4：1 回、 震度 3：6 回、震度 2：12 回、 震度 1：14 回）
2006年11月	98	22	11	4						135	新島・神津島近海 (震度 3：2 回、震度 2：2 回、 震度 1：8 回)
2006年10月	73	23	5	1						102	
2006年 9 月	64	21	11	1						97	
2006年 8 月	63	22	8	1						94	
2006年 7 月	82	24	12	3						121	新島・神津島近海（震度 4：2 回、 震度 3：2 回、震度 2：5 回、 震度 1：15 回）
2007年計	927	364	117	36	3	1	1	2		1451	（平成19年 1 月～平成19年 7 月）
過去 1 年計	1307	498	166	46	3	1	1	2		2024	（平成18年 8 月～平成19年 7 月）

注)①「記事」欄の「*」は関連の地震で震度 1 以上を観測した地震の回数。「記事」欄には主に震度 5 弱以上を観測した地震、または震度 1 以上を 10 回以上観測した地震活動について記載した。

②地方公共団体等の震度計による震度の発表開始年月日。

平成 9 (1997) 年 11 月 10 日 秋田県、埼玉県、横浜市（神奈川県）、新潟県、愛知県、大阪府、奈良県、和歌山県、岡山県、山口県
 平成 10 (1998) 年 6 月 15 日 群馬県、福井県、静岡県、三重県、島根県、愛媛県
 10 月 15 日 青森県、山形県、茨城県、石川県、京都府、兵庫県、鳥取県、広島県、徳島県、熊本県、
 宮崎県、鹿児島県
 平成 11 (1999) 年 7 月 21 日 東京都、長野県
 平成 12 (2000) 年 1 月 12 日 栃木県、千葉県、岐阜県、名古屋市（愛知県）
 3 月 28 日 滋賀県
 7 月 18 日 富山県、香川県、大分県
 平成 13 (2001) 年 3 月 22 日 佐賀県 5 月 10 日 山梨県、川崎市（神奈川県）
 7 月 19 日 高知県 12 月 12 日 福島県
 平成 14 (2002) 年 3 月 20 日 岩手県、宮城県、神奈川県、福岡県、仙台市（宮城県）
 7 月 29 日 北海道、長崎県
 平成 15 (2003) 年 3 月 10 日 沖縄県
 平成 16 (2004) 年 5 月 26 日 独立行政法人防災科学技術研究所

● 表 2．日本及びその周辺におけるマグニチュード (M) 別の月別地震回数
 <平成 18 年 (2006 年) 7 月～平成 19 年 (2007 年) 7 月>

	M3.0 ～ M3.9	M4.0 ～ M4.9	M5.0 ～ M5.9	M6.0 ～ M6.9	M7.0 以上	計 M3.0以上	計 M4.0以上	記事
2007年 7 月	350	76	14	3		443	93	9 日：千島列島東方 (M6.2) 16 日：平成 19 年 (2007 年) 新潟県中越沖地震 (M6.8) 16 日：京都府沖 (M6.7) 平成 19 年 (2007 年) 新潟県中越沖地震の余震活動 (M3.0～3.9：88 回、M4.0～4.9：12 回、 M5.0～5.9：1 回)
2007年 6 月	268	70	11			349	81	
2007年 5 月	264	70	11			345	81	平成 19 年 (2007 年) 能登半島地震の余震活動 (M3.0～3.9：20 回、M4.0～4.9：3 回)
2007年 4 月	374	110	33	3		520	146	20 日：宮古島北西沖 (M6.3, M6.7, M6.1) 平成 19 年 (2007 年) 能登半島地震の余震活動 (M3.0～3.9：55 回、M4.0～4.9：8 回)
2007年 3 月	474	106	13	3		596	122	8 日：鳥島近海 (M6.0) 9 日：日本海北部 (M6.2) 25 日：平成 19 年 (2007 年) 能登半島地震 (M6.9) 平成 19 年 (2007 年) 能登半島地震の余震活動 (M3.0～3.9：231 回、M4.0～4.9：29 回、 M5.0～5.9：3 回)
2007年 2 月	233	57	9	1		300	67	17 日：十勝沖 (M6.2)
2007年 1 月	244	113	24	2	2	385	141	13 日：千島列島東方 (M8.2) 14 日：千島列島東方 (M6.5) 25 日：台湾付近 (M6.1) 31 日：マリアナ諸島 (M7.1)
2006年 12 月	274	107	26	2	1	410	136	8 日：千島列島東方 (M6.4) 26 日：台湾付近 (M6.9、M7.2)
2006年 11 月	254	76	42	3	1	376	122	15 日：千島列島東方 (M7.9、M6.6) 16 日：千島列島東方 (M6.1) 18 日：奄美大島近海 (M6.0)
2006年 10 月	254	75	19	7		355	101	1 日：千島列島東方 (M6.8、M6.6) 9 日：台湾南方沖 (M6.1) 11 日：福島県沖 (M6.0) 12 日：与那国島近海 (M6.2) 13 日：千島列島東方 (M6.3) 24 日：鳥島近海 (M6.8)
2006年 9 月	268	62	10	1		341	73	28 日：千島列島東方 (M6.0)
2006年 8 月	263	57	10	1		331	68	7 日：父島近海 (M6.2)
2006年 7 月	232	40	3	1		276	44	28 日：台湾付近 (M6.2)
2007年計	2207	602	115	12	2	2938	731	(平成 19 年 1 月～平成 19 年 7 月)
過去 1 年計	3520	979	222	26	4	4751	1231	(平成 18 年 8 月～平成 19 年 7 月)

注) 日本及びその周辺：原則、北緯 20～49 度、東経 120～154 度の範囲。「記事」欄には主に M6.0 以上の地震について記載した。

●世界の主な地震

7月に世界で発生したマグニチュード（M）6.0以上または被害を伴った地震の震央分布を図1に示す。また、その震源要素等を表1に示す。

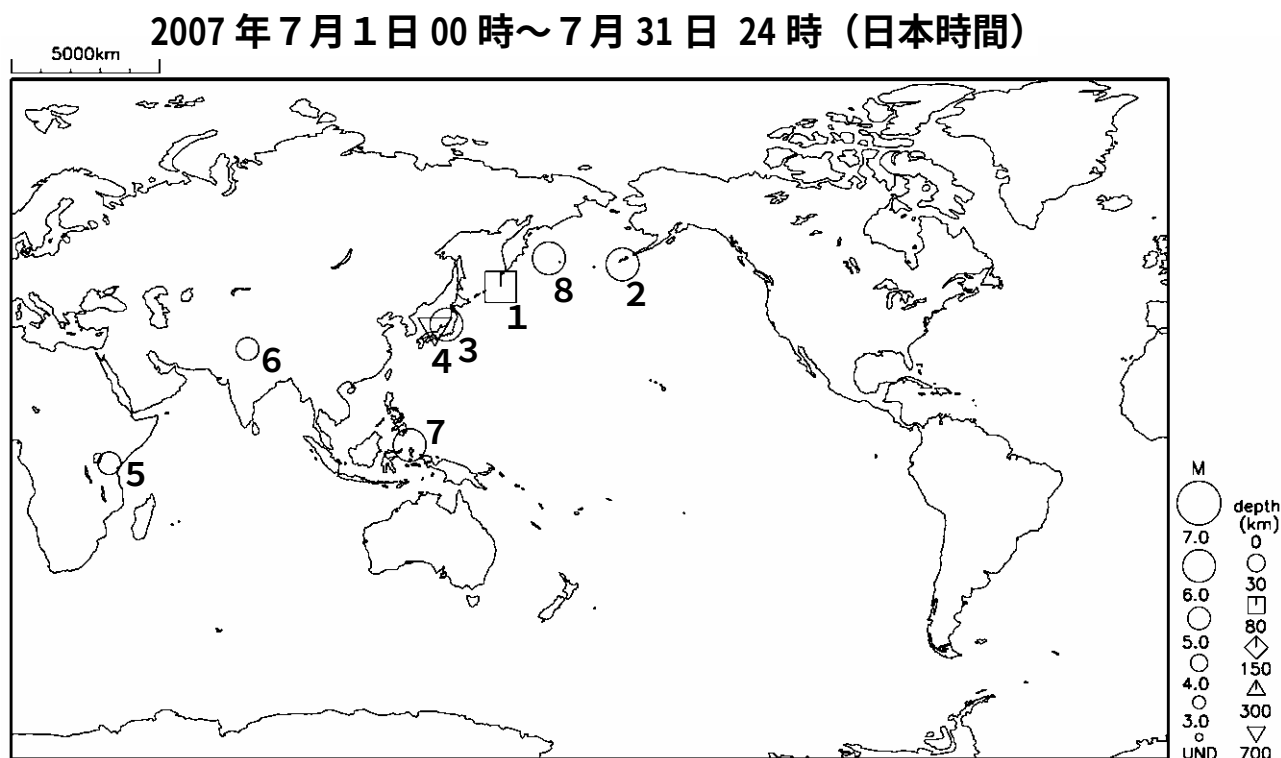


図1 2007年7月に世界で発生したM6.0以上または被害を伴った地震の震央分布

＜震源要素は米国地質調査所(USGS)発表の QUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による＞

*：数字は、表1の番号に対応する。

**：マグニチュードはmb（実体波マグニチュード）、Ms（表面波マグニチュード）のいずれか大きい値を用いて表示している。ただし、mb, Ms どちらの値も求められていない場合は Mw（モーメントマグニチュード）の値を用いて表示している。

***：日本付近で発生した地震については、震源要素及びマグニチュードは気象庁による。

表1 2007年7月に世界で発生したマグニチュード6.0以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	月 日 時	緯度	経度	深さ (km)	mb	Ms	Mw	震央地名	備考 (被害状況など)
1	07月09日03時54分	N47°	04.2'E155°	06.4'	30	5.5	(6.2)	千島列島東方	
2	07月15日22時26分	N52°	22.1'W168°	01.3'	10	5.6	6.1	アリューシャン列島フォックス諸島	
3	07月16日10時13分	N37°	33.4'E138°	36.5'	17		(6.8)	新潟県上中越沖	平成19年(2007年)新潟県中越沖地震 死者11人、重傷177人、軽傷1,810人 住家全壊1,096棟、住家半壊2,678棟 住家一部破損28,122棟など
4	07月16日23時17分	N36°	51.9'E135°	06.2'	374	6.2	(6.7)	京都府沖	
5	07月17日23時10分	S 2°	42.9'E 36°	23.2'	8	5.6	5.7	タンザニア	小被害
6	07月23日08時02分	N30°	59.7'E 78°	17.7'	6	5.0	4.3	インド北部	負傷者3人、住家被害など
7	07月26日14時40分	N 2°	49.3'E127°	28.9'	25	6.4	6.7	モルッカ海北部	負傷者数人、住家被害数十棟 NWPTA発表
8	07月29日13時54分	N53°	41.5'E169°	38.8'	24	6.1	5.5	ロシア、コマンドル諸島	

・震源要素、被害状況等は米国地質調査所(USGS)発表の QUICK EPICENTER DETERMINATIONS(QED)による（2007年8月3日現在）。ただし、日本付近で発生した地震については震源要素及びマグニチュード（Msの欄に括弧を付して記載）は気象庁、被害状況は総務省消防庁による（2007年8月6日現在）。

・時分は震源時で日本時間【日本時間＝協定世界時＋9時間】である。

・MwはUSGSのモーメントマグニチュードである。

・NWPTAは、気象庁が北西太平洋域に提供している北西太平洋津波情報である（地震・火山月報（防災編）2005年5月号参照）。

平成 19 年 7 月の主な火山活動

【噴火した火山】

▲ 諏訪之瀬島【活発な状況（レベル 3）】

26 日から 30 日にかけて小規模な噴火が発生した。

【活発もしくはやや活発な状況の火山】

● 樽前山【やや活発な状況】

A 火口は高温の状態が続いている。

● 三宅島【やや活発な状況】

多量の火山ガスの放出が続いている。

● 硫黄島【やや活発な状況】

国土地理院の観測によると、昨年 8 月以降、島北部を中心として島全体が大きく隆起している地殻変動は鈍化しながらも継続している。

● 桜 島【比較的静穏な噴火活動（レベル 2）】

今期間、噴火は観測されなかったが、長期にわたり噴火活動が継続している。

● 薩摩硫黄島【やや活発な状況（レベル 2）】

噴煙活動はやや活発で、火山性地震のやや多い状態が続いている。

● 口永良部島【やや活発な状況（レベル 2）】

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながら、やや多い状態が続いている。

【静穏な状況であるが観測データ等に変化のあった火山】

◇ 伊豆大島【静穏な状況（レベル 1）】

20～21 日に島の西部から西方海域で地震が多発し、26 日まで地震回数のやや多い状態が続いた。この活動により震度 3 を 5 回観測したほか、震度 2～1 を 30 回観測した。

※ 海底火山

注 1 本資料で示すレベルとは、現在 12 火山に導入している火山活動度レベルをいう。

注 2 火山名に下線を引いた火山について、説明資料（火山活動解説資料）を配布。

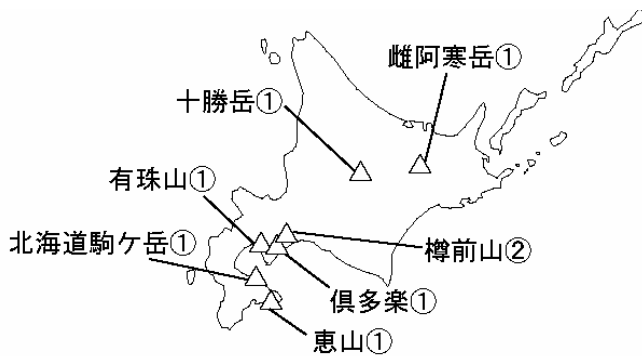
注 3 記号の意味

▲：噴火した火山 ●：活動が活発もしくはやや活発な状況の火山

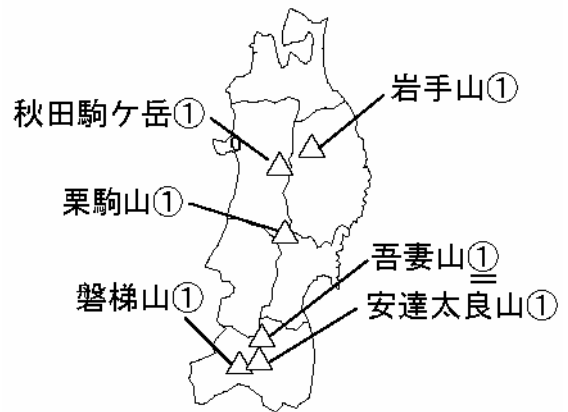
◇：静穏な状況であるが観測データ等に変化のあった火山

解説を掲載した火山とその活動状況

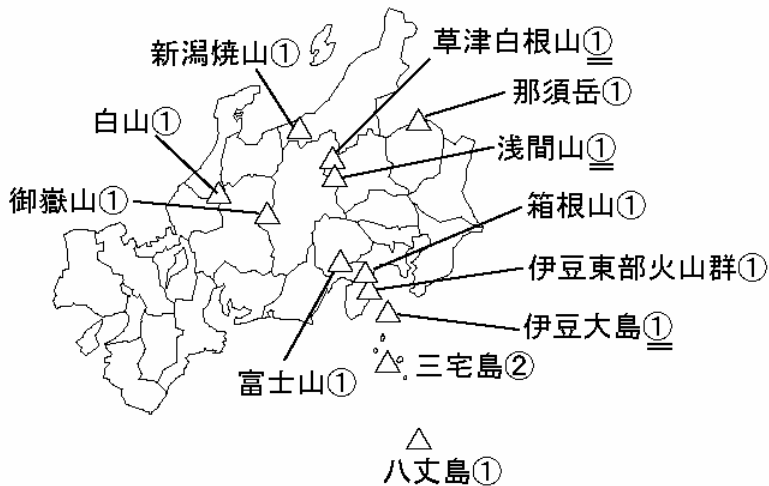
【北海道地方】



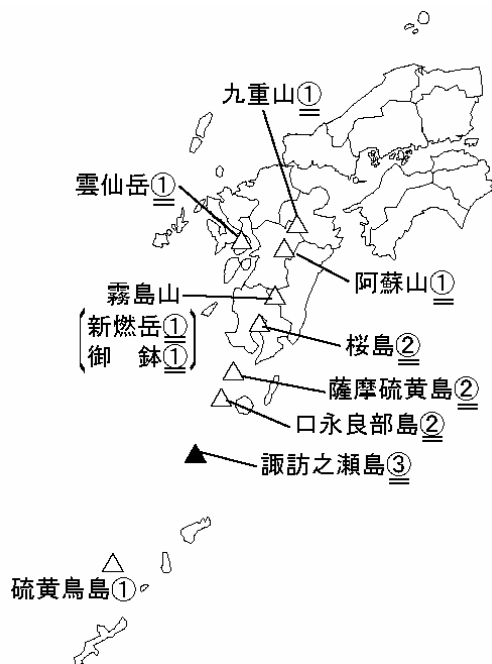
【東北地方】



【関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島】



【中国・九州地方、南西諸島】



凡例

①：火山活動が静穏な状況

②：火山活動がやや活発な状況

③：火山活動評価が活発な状況

注) 2重線を引いた数字はレベルを示す。

①：レベル1

②：レベル2

③：レベル3

△：解説を掲載した火山

▲：解説を掲載した火山のうち噴火した火山

過去1年間の火山活動の状況（やや活発もしくは活発な状況であった火山）

火 山 名	※	平成18年					平成19年						
		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
雌 阿 寒 岳	噴火活動	②→①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
十 勝 岳	噴火活動	②	②	②	②	②	②	②→①	①	①	①	①	①
樽 前 山	噴火活動	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
浅 間 山	噴火レベル	②	②→①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
御 嶽 山	噴火活動	①	①	①	①	①	①→②	②	②	②	②→①	①	①
三 宅 島	噴火活動	▲	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
硫 黄 島	噴火活動	①	①	①	①	①	①→②	②	②	②	②	②	②
福 徳 岡 ノ 場	噴火活動	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	-
阿 蘇 山	噴火レベル	②→①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
霧 島 山（新燃岳）	噴火レベル	①	①	①	①	①→②	②→①	①	①	①	①	①	①
霧 島 山（御鉢）	噴火レベル	①	①	①	①	①	①	①→②	②→①	①	①	①	①
桜 島	噴火レベル	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
薩 摩 硫 黄 島	噴火レベル	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
口 永 良 部 島	噴火レベル	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
諏 訪 之 瀬 島	噴火レベル	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲

※噴火が発生した場合▲で示す。レベル及び活動は、火山活動度レベルが導入されている火山については火山活動度レベルを、それ以外の火山については活動評価をそれぞれ示す。

凡例

- ①：火山活動が静穏な状況もしくはレベル1
- ②：火山活動がやや活発な状況もしくはレベル2
- ③：火山活動が活発な状況もしくはレベル3
- ：観測データがなく評価対象外

2007 年 7 月の火山情報発表状況

火山情報の発表はありませんでした。

全国の火山活動評価結果（7 月 31 日現在）

（1）主な活火山（36 火山）

	火山名	火山活動評価（7 月 31 日現在）	最近の活動経過	
北海道地方	雌阿寒岳	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏 平成 18 年 2 月 18 日 やや活発 3 月 21 日 【噴火】活発 4 月 12 日 やや活発 5 月 25 日 静穏	☆
	十勝岳	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 やや活発 平成 19 年 2 月 16 日 静穏	☆
	樽前山	やや活発な状況	平成 17 年 6 月 21 日 やや活発	☆
	倶多楽	静穏な状況	平成 18 年 2 月 28 日 静穏	☆
	有珠山	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏	☆
	北海道駒ヶ岳	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏	☆
	恵山	静穏な状況	平成 17 年 11 月 2 日 静穏	☆
東北地方	岩手山	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏	☆
	秋田駒ヶ岳	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏	☆
	栗駒山	静穏な状況	平成 18 年 11 月 14 日 静穏	☆
	吾妻山	静穏な状況（レベル 1）	平成 17 年 2 月 1 日 静穏	※
	安達太良山	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏	☆
	磐梯山	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏	☆
関東・中部地方及び伊豆・小笠原諸島	那須岳	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏	☆
	草津白根山	静穏な状況（レベル 1）	平成 17 年 6 月 1 日 静穏（レベル 1）	※
	浅間山	静穏な状況（レベル 1）	平成 15 年 11 月 4 日 やや活発（レベル 2） 平成 16 年 7 月 20 日 静穏（レベル 1） 7 月 31 日 やや活発（レベル 2） 9 月 1 日 【噴火】活発（レベル 3） 平成 17 年 6 月 21 日 やや活発（レベル 2） 平成 18 年 9 月 22 日 静穏（レベル 1）	※
	新潟焼山	静穏な状況	平成 18 年 2 月 28 日 静穏	☆
	御嶽山	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏 平成 19 年 1 月 19 日 やや活発 平成 19 年 5 月 25 日 静穏	☆
	白山	静穏な状況	平成 17 年 11 月 2 日 静穏	☆
	富士山	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏	☆
	箱根山	静穏な状況	平成 18 年 11 月 14 日 静穏	☆
	伊豆東部火山群	静穏な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏	☆
	伊豆大島	静穏な状況（レベル 1）	平成 15 年 11 月 4 日 静穏（レベル 1）	※
	三宅島	やや活発な状況	平成 17 年 6 月 21 日 やや活発	☆
	八丈島	静穏な状況	平成 18 年 2 月 28 日 静穏	☆
	硫黄島	やや活発な状況	平成 17 年 6 月 21 日 静穏 平成 19 年 1 月 9 日 やや活発	☆
	福德岡ノ場	やや活発な状況	平成 17 年 11 月 2 日 やや活発	☆

	火山名	火山活動評価（7月31日現在）	最近の活動経過		
九州地方・南西諸島	九重山	静穏な状況（レベル1）	平成17年2月1日	静穏（レベル1）	※
	阿蘇山	静穏な状況（レベル1）	平成15年11月4日 平成16年1月14日 2月13日 平成17年4月14日 5月13日 平成18年1月20日 3月24日 8月4日	やや活発（レベル2） 【噴火（土砂噴出）】 活発（レベル3） やや活発（レベル2） 【噴火（土砂噴出）】 活発（レベル3） やや活発（レベル2） 静穏（レベル1） やや活発（レベル2） 静穏（レベル1）	※
	雲仙岳	静穏な状況（レベル1）	平成15年11月4日	静穏（レベル1）	※
	霧島山（新燃岳）	静穏な状況（レベル1）	平成17年2月1日 平成18年2月1日 5月22日 平成18年12月3日 平成19年1月9日	静穏（レベル1） やや活発（レベル2） 静穏（レベル1） やや活発（レベル2） 静穏（レベル1）	※
	霧島山（御鉢）	静穏な状況（レベル1）	平成17年2月1日 平成18年5月22日 平成19年2月5日 平成19年3月5日	やや活発（レベル2） 静穏（レベル1） やや活発（レベル2） 静穏（レベル1）	※
	桜島	比較的静穏な噴火活動（レベル2）	平成15年11月4日 平成18年6月12日 8月18日	比較的静穏な噴火活動（レベル2） 【昭和火口から噴火】 活発（レベル3） 比較的静穏な噴火活動（レベル2）	※
	薩摩硫黄島	やや活発な状況（レベル2）	平成17年2月1日	やや活発（レベル2）	※
	口永良部島	やや活発な状況（レベル2）	平成17年2月1日	やや活発（レベル2）	※
	諏訪之瀬島	活発な状況（レベル3）	平成17年2月1日	【噴火継続】 活発（レベル3）	※
	硫黄島	静穏な状況	平成19年2月16日	静穏	☆

注）最近の活動経過欄は、火山活動度レベル導入火山（※）にはレベル導入日からの、それ以外の火山（☆）には第101回火山噴火予知連絡会（平成17年6月21日開催）以降最初に評価を明記した火山噴火予知連絡会開催日からの活動経過を示している。

（2）その他の活火山（49 火山）

以下の活火山では、いずれも火山活動は静穏な状況である。

	火 山 名
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、摩周、アトサヌブリ、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島
東北地方	恐山、岩木山、八甲田山、十和田、秋田焼山、八幡平、鳥海山、鳴子、肘折、蔵王山、沼沢、燧ヶ岳
関東・中部地方 及び伊豆・小笠原諸島	高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、焼岳、アカンダナ山、乗鞍岳、利島、新島、神津島、御蔵島、青ヶ島
中国・九州地方 及び南西諸島	三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島

（補足）評価対象外の活火山（23 火山）

無人島：伊豆鳥島、西之島

岩礁あるいは岩：ベヨネース列岩、須美寿島、嬬婦岩

海底火山：海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山、西表島北北東海底火山

北方四島：茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山

● 世界の主な火山活動

平成 19 年（2007 年）7 月に噴火したと報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。
このうち、顕著な活動が見られた主な火山は以下のとおりである。

ガムコノラ（ハルマヘラ、インドネシア）（図中A）

8 日に水蒸気爆発が発生し、噴煙は海拔 1,800m に達した。その後も噴火活動は継続し、地震回数も増加した。9 日以降は噴煙高度が高くなる傾向が見られ、11 日には噴煙高度が海拔 9,400m の高さに達する噴火が発生した。また、火山岩塊が断続的に噴出した。これらの活動のため、火山から 8km 以内の住民約 8,400 人が避難した。しかし、16 日以降は地震回数は減少し、噴火による噴煙高度も低下した。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館の GVP（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）

